

講演時刻	講演番号	講演題目	著者氏名・所属
A会場			
11月11日			
10:00	A01	首都圏直下地震の想定震源	◦ 岡田義光 (防災科研)
10:10	A02	近地強震波形を利用した大地震の地震モーメントの即時推定	◦ 西前裕司 (気象庁)
10:20	A03	地震研究所の煤書き記録の整理と利用環境の整備	◦ 菊地正幸・島崎邦彦・鷹野澄・山中佳子・野口和子
10:30	A04	ベトナムにおける広帯域地震観測点観測網及び地域観測網としての利用	◦ 森田裕一 (東大地震研), N. D. Xuyen, N. Q. Dung (Inst. of Geophysic, Vietnam)
10:40	A05	気圧計アレーで観測された音波の脈動	◦ 西田究(東大地震研) 深尾良夫(東大地震研,固体地球統合フロンティア) 綿田辰吾(東大地震研) 小林直樹(東工大地惑) 須田直樹(広島大地球システム) 名和一成(産総研) 田平誠(愛教大)
10:50	A06	Aseismic Deformation, Plate Subduction and Stress Localization in Kanto-Tokai, Central Japan	◦ S. Zhao, T. Hori, A. Smith and Y. Kaneda
11:00	A07	「実」地震が地域住民の防災対応行動に与えるインパクト - 鳥取県境港市における調査 -	◦ 小山真紀 (東濃地震科研) ・ 太田裕 (東濃地震科研) ・ 中島唯貴 (愛知淑徳大)
11:10	A08	近接2地点の震度と被害にみる差異 - 2000年鳥取県西部地震時の境港市における事例 -	◦ 太田裕 (東濃地震科研) ・ 小山真紀(東濃地震科研)
11:20	A09	1923年関東地震による木造家屋全壊率と地盤条件との関係 - 横浜市釜利谷地区での検討 -	◦ 高浜 勉 ((株)構造計画研究所) 翠川三郎 (東京工業大学)
11:30	A10	1923年関東地震による強震動と地盤: 東京市での“土蔵の話”	◦ 武村雅之(鹿島小堀研究室)
11:40	A11	1923年関東地震における火災被害による死者増加率	◦ 諸井孝文, 武村雅之 (鹿島小堀研究室)
11:50	A12	液状化と免震	◦ 西澤勝 (東北大学)
13:00	A13	2000年鳥取県西部地震本震のfmax	◦ 鶴来雅人(地盤研究財団) ・ 香川敬生 (地盤研究財団) ・ 入倉孝次郎 (京大防災研)
13:10	A14	東北地方周辺で発生するやや深発地震の高振動数成分の励起特性	◦ 池田孝・武村雅之・加藤研一(鹿島小堀研)
13:20	A15	1993年釧路沖スラブ内地震 (Mw=7.6)による強震動記録: 震源及び伝播経路特性の推定	◦ 笹谷努 (北大・理) ・ 森川信之 (防災科研) ・ 前田宜浩 (北大・理)
13:30	A16	断層近傍における地震動	◦ 増田徹・引間和人 (応用地質株式会社)
13:40	A17	やや短周期域の震源モデル構築を目指して (3) - レシーバーファンクションを用いた地下構造の推定 -	◦ 宮腰研・長郁夫・香川敬生・PETUKHIN Anatoly (地盤研究財団) ・ 岩田知孝 (京大防災研)
			◦ 岩田知孝*・関口春子**・三宅弘恵*・

13:50	A18	特性化震源モデルと動的震源パラメータ (2)	ZHANG Wenbo*・宮腰 研*** (*京大防災研・**産総研活断層研究センター・*** (財) 地盤研)
14:00	A19	強震動予測のための修正レシピの適用条件 -Mw7以上の内陸大地震-	入倉孝次郎・三宅弘恵 (京大防災研)
14:10	A20	強震動予測のための特性化震源モデルにおけるアスペティの実効応力と断層タイプおよび深さとの経験的関係 (その1)	壇一男・渡辺基史・宮腰淳一(大崎総合研究所)
14:20	A21	強震動予測のための特性化震源モデルにおけるアスペティの実効応力と断層タイプおよび深さとの経験的関係 (その2)	渡辺基史・壇一男・宮腰淳一(大崎総合研究所)
14:30	A22	パルス波に着目した1994年ノースリッジ地震の震源モデルに関する検討	引田智樹・池浦友則 (鹿島技術研究所)
14:40	A23	経験的グリーン関数を用いた1997年伊豆半島東方沖地震(Mj5.7)の震源インバージョン	芝 良昭 (電力中央研)
14:50	A24	1978年宮城県沖地震の震源モデル	釜江克宏・川辺秀憲 (京大原子炉) ・入倉孝次郎 (京大防災研)
15:00		休憩	
15:10	A25	強震動予測のための震源モデルの特性化手法の検証	宮腰淳一・壇一男・福喜多輝(清水建設)・八代和彦(東京電力)
15:20	A26	波形合成結果を用いた震度データによる震源特性のインバージョン解析法の検証	神田克久・武村雅之・池田孝 (鹿島小堀研) ・宇佐美龍夫
15:30	A27	強震動予測における波形合成手法とパラメータとの関係	引間和人・増田徹 (応用地質株式会社)
15:40	A28	特性化震源モデルにおける震源パラメータのばらつきが合成波形に及ぼす影響	池田隆明 (飛鳥建設・技研) 、釜江克宏 (京大・原子炉) 、三輪 滋 (飛鳥建設・技研) 、入倉孝次郎 (京大・防災研) 地震調査委員会長期評価部会・強震動評価
15:50	A29	確率論的地震動予測地図の試作版 (地域限定) について	部会 (推進本部) , 佐藤清隆 (文科省地震課)
16:00	A30	地震動予測地図作成手法の概要	藤原広行・河合伸一・石井透・早川讓・青井真 (防災科研) ・奥村俊彦・石川裕 (清水建設) ・佐藤俊明 (大崎総研) ・篠原秀明 (応用地質)
16:10	A31	特性化震源モデルを用いた南海地震時の強震動予測	川辺秀憲・釜江克宏 (京大原子炉) ・入倉孝次郎 (京大防災研)
16:20	A32	大阪平野における地震動予測の試み (2) 上町断層系と生駒断層系	関口春子・堀川晴央・加瀬祐子・石山達也・佐竹健治・杉山雄一 (産総研・活断層研究センター) ・Arben PITARKA (URS Corp.)
16:30	A33	三次元地盤構造を考慮したハイブリッド法による福岡市域の予測強震動と予測被害	川瀬博 (九大人間環境) ・中道悟 (清水建設) ・長戸健一郎 (九大人間環境)
16:40	A34	地震動シミュレーションに海は考慮すべきか? (2) -堆積層を伝わる地震波に対する海の影響-	畑山健 (消防研究所)
16:50	A35	軟弱地盤における波動場 (1)	飯田昌弘 (東京大学地震研究所)

11月12日

- 9:00 A36 第4の変動波の可能性について ° 大内徹(神戸大)
- 9:10 A37 レイリー波伝播における偏波異常の特性 ° 吉田 満
- 9:20 A38 長周期Rayleigh波のエンベロープ形成一球面上の一次等方散乱モデルの解析解一理) ° 前田拓人・佐藤春夫・大竹政和(東北大)
- 9:30 A39 計算量も軽減する理論的グリーン関数群の省容量化格納法 ° 横井俊明(建築研)、藤原広行(防災科
研)、仲間豊((株)富士総研)
- 9:40 A40 任意形状の自由表面のある媒質における有限差分法を用いた効率のよい高精度理論波形計算手法の開発 ° 水谷宏光(IFREE, JAMSTEC), グラーロ
バート(東大理)
- 9:50 A41 On the optimally accurate source representation ° 竹内 希(東大地震研)・グラーロバ
ート(東大理)・平林伸康
(Schlumberger)・水谷宏光(JAMSTEC)
- 10:00 A42 長周期表面波を用いた巨大地震の多重震源解析 ° 原 辰彦(建築研究所国際地震工学セン
ター)
- 10:10 A43 非常に密に分布する亀裂群による2次元SH波の散乱減衰と速度分散 ° 村井芳夫(北大理)
- 10:20 A44 短波長不均質構造が地震波に及ぼす影3:多変量ARモデルにもとづく散乱波の解析アレイ観測に基づく散乱係数推定の試み(2) ° 西澤 修(産総研)北川 源四郎(統数
研)
- 10:30 A45 (2) ° 松本 聡(九大・理)
- 10:40 休憩
- 10:50 A46 地球深部望遠鏡としての日本列島地震計アレイ ° 川勝均, 綿田辰吾(東大地震研)
- 11:20 A47 Hi-netで観測された顕著な遠地実体波走時異常 ° 綿田辰吾(東大地震研)
- 11:30 A48 Hi-netで観測された遠地地震波形の相関: 大規模アレイ解析の序 ° 加藤護(京大・総合人間)・功刀卓(防
災科研)
- 11:40 A49 防災科研Hi-netで観測されたScSp波から見る西南日本下の太平洋スラブの形状 ° 関根秀太郎・小原一成・汐見勝彦・松原
誠(防災科研)
- 11:50 A50 高密度地震観測網で観測されたScSp波による太平洋スラブの形状 ° 海野徳仁・浅野陽一・岡田知己・松澤
暢・長谷川昭(東北大・院・予知セ)
- 12:00 A51 レシーバ関数解析による中国・四国地方のフィリピン海プレート位置と形状 ° 汐見勝彦・小原一成(防災科研)・佐藤
春夫(東北大院・理)
- 14:00 A52 防災科研Hi-netで見えてきたことと今後の地震学に対する貢献 ° 小原 一成(防災科学技術研究所)
- 14:30 A53 防災科研Hi-netのデータを用いた日本列島下の地殻・上部マントルの3次元P波・S波速度構造 ° 松原誠・関根秀太郎・小原一成・笠原敬
司(防災科研)
- 14:40 A54 全国地震観測アレイで見る日本列島の揺れ方 ° 額縁一起・古村孝志(東大地震研)
- 14:50 A55 アニメーションから見た東北地方北部における深発地震の波動伝播 ° 渡邊和俊(弘前大理工)
- 15:00 A56 高密度観測網から見た東北・北海道地方における地震波振幅異常の分布 ° 小菅正裕(弘前大理工)
- 15:10 A57 東北日本における火山直下と非火山直下の地殻下部低周波地震の比較 ° 勝間田 明男(気象大学校)・鎌谷 紀子(気
象庁地震火山部)

15:20	A58	モホ近傍における地震波散乱特性 -東北地方北部及び北海道南部での高密度観測データの解析-	° 相澤信吾 (弘前大理) ・小菅正裕 (弘前大理工)
15:30		休憩	
15:40	A59	地震波の最大振幅の距離減衰および主要動継続時間の増大 -マルコフ近似法に基づく理論エンベロープによる解釈-	° 齊藤竜彦, 佐藤春夫, 大竹政和 (東北大・理), 小原一成 (防災科研)
15:50	A60	コーダ・エンヴェロープに基づいたモーメント・マグニチュード Mw (coda) の決定	° 田島 文子 (広島大理) ・Kevin MAYEDA (LLNL) ・Douglas S. DREGER (UCB)
16:00	A61	震源断層の不均質構造と破壊過程との関係 -2000年鳥取県西部地震の場合-	° 澁谷拓郎 (京大防災研)
16:10	A62	余震観測による2000年鳥取県西部地震の断層性状	° 青柳恭平・阿部信太郎・宮腰勝義・井上大榮 (電中研)
16:20	A63	鳥取県西部地震の震源断層におけるアスペリティとS波偏向異方性	° 下川明子・田所敬一 (名大環境) ・水野高志・西上欽也 (京大防災研)
16:30	A64	芸予地震 (2001.3.24) はスラブマントル地震か?	° 大倉敬宏 (京大理・阿蘇) ・瀬野徹三 (東大地震研)
16:40	A65	高密度強震観測網データから推定する2001年芸予地震の震源断層面と震源過程	° 笈 楽磨 (神戸大理)
16:50	A66	経験的グリーンテンソル法を用いた微小地震のメカニズム解の推定 -稠密観測網のデータを用いた手法の検証-	° 伊藤喜宏・岡田知己・長谷川昭 (東北大・予知セ)
11月13日			
9:00	A67	日本列島域の地殻活動予測シミュレーション	° 松浦充宏 (東大理) ・CAMP Group
9:12	A68	日本列島域の3次元プレート境界面形状: 中解像度スタンダードモデルの開発	° 福井 健史 (東大理), 橋本 千尋 (IFREE), 岩崎 貴哉 (東大地震研), 佐藤 利典 (千葉大理), 松浦 充宏 (東大理)
9:24	A69	複雑断層系の地震発生過程シミュレーション	° 平原和朗 (名大環境) ・地球シミュレータ地震発生過程研究グループ
9:36	A70	3次元不均質場での波動伝播と強震動シミュレーション	° 古村孝志 (東大地震研) ・地球シミュレータ波動伝播と強震動研究グループ
9:48	A71	全地球弾性応答シミュレーション	° 坪井誠司 (IFREE) ・グローバル地震学研究グループ
10:00	A72	マントル対流の数値シミュレーション	地球シミュレータマントル対流研究グループ (代表: ° 中久喜伴益, 広大理)
10:12	A73	三次元球殻モデルによる現在のプレート運動の再現	° 本多 了 (東大) ・多川道雄 (広大) ・吉田晶樹 (東大) ・岩瀬康行 (防大) ・木戸元之 (海技セ)
10:24	A74	実地球環境での地球磁場・変動シミュレーション	° 浜野洋三 (東大理学系研究科) ・地球シミュレータ地球電磁気研究グループ
10:40		休憩	
10:50	A75	A new look at earthquake precursors	° Keiiti Aki (地震予知総合研究振興会)
11:20	A76	地震予知のための新たな観測研究計画: 現状・展望・挑戦	° 松澤暢 (東北大理) ・地震予知研究協議会企画部 ° 宮崎直一, 平田直 (東大地震研), 飯尾能

11:40	A77	日本列島及び周辺域の定常広域活動	久(京大防災研)
11:50	A78	地震発生に至る準備・直前過程	° 小菅正裕(弘前大理工)・岩崎貴哉(東大地震研)
12:00	A79	地震発生の素過程	° 吉田真吾・中谷正生・加藤尚之(東大地震研)・加藤愛太郎(IFREE・JAMSTECおよび東大地震研)
14:00	A80	断層破碎帯の微視的過程, 断層システムの巨視的挙動及び地殻・マンツルのダイナミクス	° 松浦充宏(東大理)
14:10	A81	観測技術開発部会からの提案とその実現見込みについて	° 佐野修(東大地震研)・藤本博巳(東北大理)・新谷昌人・金沢敏彦・東原紘道(東大地震研)・山内常生・田所敬一(名大環境)・柳谷俊(京大防災研)・松島健(九大理)
14:20	A82	アクロスを用いた東海地域のフィリピン海プレート上面反射時間変動モニターの性能評価	。 山岡耕春(名大・環境)、小池勝彦(名大・環境) 生田領野(名大・環境)
14:30	A83	南ア4金鉱山でのM>3震源地下直接観測ー南ア金鉱山における半制御地震発生実験(30)	° 小笠原宏(立命館大理工)・川方裕則(京大防災研)・加藤愛太郎(IFREE・JAMSTECおよび東大地震研)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
14:40	A84	南アフリカ金鉱山における半制御地震予知実験(2002ー2006年度)(31)	° 飯尾能久(京大防災研)・小笠原宏(立命館大理工)・南アフリカ金鉱山における半制御地震予知実験グループ
14:50	A85	ボアホール地震観測による震源過程研究	° 今西和俊(産総研)・伊藤久男(産総研)・桑原保人(産総研)
15:00	A86	西南日本における深部低周波微動の時空間的特徴	。 小原 一成(防災科学技術研究所)
15:10	A87	スロー・スリップ・イベントのすべり域と地震アスペリティの空間的住み分け	。 川崎一朗(京大防災研)
15:20	A88	ゆっくり地震の物理機構についてー流動と摩擦が共存する構成則を用いたモデル化ー	° 芝崎文一郎(建築研)・飯尾能久(京大防災研)・田中秀実(東大理)
15:30		休憩	
15:45	A89	バリアー侵食, 応力拡散, ゆっくりすべりー東海地震に対する意味ー	° 瀬野徹三(東大地震研)
15:55	A90	Universal Nucleation Length for Slip-Weakening Rupture Instability Under Heterogeneous Fault Loading	° 上西幸司・James R. Rice(ハーバード大)
16:05	A91	破壊核形成過程における破壊成長距離と動的不安定に至るまでの時間との間に成立する普遍的スケーリング関係	。 大中医譽(東京大学およびUniversity College London)
16:15	A92	広域地震活動の時空間統計モデル	° 尾形良彦(統計数理研究所)
16:25	A93	地震属性の時系列における予兆的な地震活動の静穏さとその短期地震予知への応用	° 武田文秀((株)武田エンジニアリング)

16:35	A94	東北日本の応力場に関する一考察	° 山本清彦・佐藤凡子（東北大・院・理）
16:45	A95	Diagnosing the Seismogenic State of Crust with Dynamic Triggering	° 金森博雄（カリフォルニア工科大学地震研究所）石田瑞穂（防災科学技術研究所）

B会場

11月11日

10:00	B01	スラブ内のオリビン (α) の準安定相が深発地震の理論地震波形に及ぼす影響	° 吉岡祥一（九大理）・村上暢（日立システム）
10:10	B02	地球自由振動のスペクトルを用いた地球深部構造の推定	° 原誠（岡山大学）・小田仁（岡山大学）
10:20	B03	中国大陸東部の活火山はホットスポットか	° 趙 大鵬（愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター）
10:30	B04	世界の主なホットスポット下のマントルブルームのイメージ	° 小野剛・趙大鵬（愛媛大学・地球深部ダイナミクス研究センター）
10:40	B05	南極地域の表面波群速度分布	° 小林励司・趙大鵬（愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター）
10:50	B06	Estimation of Moho depth in southwest Japan using Later phases identified with waveform modelings.	° Mohamed K. Salah, Mohamed F. Abdelwahed, Dapeng Zhao.
11:00	B07	Unusually Scattering Sources in the Upper Mantle of Central Japan	° Cheng-Horng LIN, Masataka ANDO, Naoyuki FUJII, Koshun TAMAOKA (Nagoya University), Anshu JIN, Kazushige OBARA, Mizuho ISHIDA (NIED)
11:10	B08	長期広帯域海底地震観測網データのレスリー関数解析による フィリピン海マントル不連続面の深さ推定	° 末次大輔(固体地球統合フロンティア)、塩原 肇(固体地球統合フロンティア)、杉岡裕子(固体地球統合フロンティア)、小平秀一(固体地球統合フロンティア)、深尾良夫(固体地球統合フロンティア)、望月公廣(東大地震研)、金沢敏彦(東大地震研)、日野亮太(東北大理)、斉田智治(名大地震火山観測研究センター)
11:20	B09	広帯域海底地震計アレーを用いたフィリピン海北東部のレイリー波速度	° 一瀬 建日(IFREE)・塩原肇・深尾良夫(ERI/IFREE)・望月公廣・金沢敏彦(ERI)・杉岡裕子・小平秀一(IFREE)・日野亮太(東北大理)
11:30	B10	地殻構造補正を適用したPP-P走時差測定	° 大林政行(固体地球統合フロンティア)・末次大輔(固体地球統合フロンティア)・深尾良夫(東大地震研、固体地球統合フロンティア)
11:40	B11	理論波形との比較による回折P波およびS波の走時決定	° 東野陽子(固体地球統合フロンティア)、深尾良夫(固体地球統合フロンティア、東大地震研)、竹内希(東大地震研)
11:50	B12	Ray path variations in a 3-D global Earth model	° 雷 建設, 趙 大鵬(愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)

13:00	B13	Membrane Surface Wave Synthetics: Modeling Mode-Mode Scattering	° 岡元太郎(東工大)・谷本俊郎(UCSB)
13:10	B14	球対称transversely isotropic媒質に対するP-SV成分の理論地震波形計算ソフトウェアのアルゴリズム	° 河合 研志(東大理)、竹内 希(東大地震研)、ゲラー・ロバート(東大理)
13:20	B15	固液複合系を伝播する弾性波の速度分散と減衰の測定	° 藤澤和浩、武井康子(東大地震研)
13:30	B16	アクロス計測による複素誘電率スペクトル測定 I. 水の誘電分散	° 松本裕史・茂田直孝・熊澤峰夫・中島崇裕(サイクル機構)
13:40	B17	Vp/Vs 比から導かれるマントル遷移層の鉱物組成	° 藤澤英幸(無し)
13:50		休憩	
14:00		趣旨説明	遠田晋次
14:05	B18	地震活動から見た活断層の問題点	° 石川有三(気象研)
14:15	B19	変動地形学と活断層研究	° 渡辺満久(東洋大)
14:30	B20	不明瞭な活断層の調査 2000年鳥取県西部地震域の調査を例として	° 井上大榮・宮腰勝義・阿部信太郎(電中研)
14:45	B21	活断層が示す第四紀地震活動と20世紀地震活動の地帯別差異 --活動のゆらぎか地域性か?	° 松田時彦(地震予知研振興会)
14:55	B22	活断層から発生する地震規模の予測に関する課題--セグメント構造, カスケードモデル, スケーリング則--	° 粟田泰夫(産総研活断層セ)
15:05	B23	活断層と地殻上部地震発生層	° 伊藤 潔(京大防災研)
15:15		休憩	
15:25	B24	内陸地震の発生過程について--断層の深部すべり等の観点から--	° 飯尾 能久(京大防災研)・小林 洋二(筑波大学)
15:40	B25	断層岩と地震の発生過程の研究: 高速摩擦を例にして	° 嶋本利彦・廣瀬文洋・C. A. J. ウィバリー・溝口一生(京大・理・地惑)
15:55	B26	地殻ブロック境界としての大規模活断層 --地震活動に見られる断層相互の関連--	° 渡辺邦彦(京大防災研)
16:05	B27	測地データから推定される活断層の運動: ブロック断層モデルに基づくシミュレーション	° 橋本 学(京大防災研)
16:20	B28	日本列島の変形過程の総合的理解へ向けて --測地的データと活断層データの矛盾は解消可能か? --	° 鷺谷 威(国土地理院)
16:30		総合討論	
11月12日			
9:00	B29	沖縄本島~台湾東部における津波の波源域	° 羽鳥徳太郎
9:10	B30	三陸の湾の固有振動の観測とそのスペクトル	° 阿部邦昭(日歯大新潟短大)
9:20	B31	フラクタルによる仮想的な海岸・海底地形を用いた津波の数値実験 (海岸線の複雑度と, 期待される波高分布)	° 舘畑秀衛(気象庁)
9:30	B32	1946年南海地震前に現れた地下水位・地	° 安藤雅孝・川邊岩夫(名大環境学研究)

9:30	B32	震活動の変化および地殻変動ープレスリッ科)・小泉尚嗣(産業総合研究所) プ発生の可能性ー	
9:40	B33	宮城県沖地震の長期発生確率の再検討 ° 岡田正実(松代地震観)	
9:50	B34	長期確率と直前予測ー日本海溝沿いにおけ ° 井元政二郎(防災科研) る前震活動ー	
10:00	B35	2000年鳥取県西部地震M7.3の前に現れた ° 小高俊一(鉄道総研) P波初動部の立ち上がり傾斜角の変化	
10:10	B36	地震と同時に発生する電界 ° 高橋耕三(無し)・藤縄幸雄・松本拓己 (防科研)	
10:20	B37	神津島における地震活動とそれに伴うVLF ° 井筒潤・尾池和夫(京大・理) 帯における電磁現象について	
10:30		休憩	
10:40	B38	島弧岩体の流動に伴うひずみエネルギーの ° 南雲昭三郎(応用地質株) 流れと大地震エネルギーの集積(東北日本 弧)	
10:50	B39	東日本の火山フロント前弧側における中小 ° 高橋努・佐藤春夫・大竹政和(東北大 規模地震の見かけ応力の規模依存性および 理)・小原一成(防災科研) 地域性	
11:00	B40	地球潮汐が地震発生に及ぼす影響:テクト ° 田中佐千子・大竹政和・佐藤春夫(東北 ニックな応力場との関連性 大理)	
11:10	B41	大地震の破壊開始点とサイスミックカップ ° 加藤尚之・瀬野徹三(東大地震研) リングの関係	
11:20	B42	サンアンドレアス断層の絶対強度:基本応 ° 寺川寿子・松浦充宏(東大理・地惑) 力場のシミュレーション	
11:30	B43	東海地域におけるベクトル型3次元地殻変 ° 黒木英州(気象研究所)・伊藤秀美・吉田 動シミュレーション 明夫(気象庁)	
11:40	B44	アバレントストレス(E_s/M_0)は地震サイズ ° 井出哲(東京大学・理・地球惑星科学) によるか Gregory C. Beroza (Dept. Geophysics, Stanford University)	
11:50	B45	Energy Balance of the 1999 Chichi, ° James Mori(京大防災研), 田中秀実 Taiwan Earthquake (東大理)	
12:00	B46	数値シミュレーションに基づく生駒断層系 ° 加瀬祐子・石山達也・堀川晴央・関口春 の破壊シナリオ 子・佐竹健治・杉山雄一(産総研・活断層 研究センター)	
14:00	B47	1944年東南海地震はなぜ浜名湖周辺で止 ° 青木治三(財)地震予知総合研究振興会 まったのか? 東濃地震科学研究所	
14:10	B48	Effects of pre-stress state and rupture ° 亀 伸樹(九大理)、ジム ライス、レ velocity on dynamic fault branching ナタ ドモウスカ(ハーバード大地惑)	
14:20	B49	臨界すべり弱体化距離の推定法−そ ° 福山英一(防災科研)・三雲健 の理論的背景−; (UNAM)・Kim B. Olsen (UCSB)	
14:30	B50	スラブ内部の正断層地震の断層破壊と臨界 ° 三雲 健(メキシコ国立大)・八木勇 すべり変位 治(建築研)	
14:40	B51	津波波形から推定される1978年宮城県沖 ° 谷岡勇市郎(気象研究所)・都司嘉宣 地震のすべり量分布 (地震研究所)	
14:50	B52	アスペリティマップ北海道編 その1 ° 山中佳子・菊地正幸(東大地震研)	
15:00	B53	広帯域強震動のためのすべり速度時間関数 ° 三宅弘恵・岩田知孝(京大防災研)・関 口春子(産総研)・入倉孝次郎(京大防災	

(5)

研)

- 15:10 B54 短周期震源スペクトル強度と地震モーメントの関係
泉谷恭男 (信州大工)
- 15:20 休憩
- 15:30 B55 プレスリップ領域を含む円形クラックによる微小地震の初期フェイズのモデル化
伊藤 忍 (産総研)
- 15:40 B56 1994年三陸はるか沖地震における初期破壊過程
本間基寛・武尾実(東大地震研)・吉田康宏(気象研究所)・西前裕司(気象庁)
- 15:50 B57 東北日本太平洋下のプレート境界面上の摩擦特性分布
矢部康男 (東北大学・理)
- 16:00 B58 東北日本太平洋下のプレート境界における中規模地震のアスペリティとその活動
岡田知己・松澤暢・長谷川昭 (東北大 理)
- 16:10 B59 東北日本太平洋下のプレート境界で発生する地震のスケーリング則
山下哲央・岡田知己・長谷川昭 (東北大 理)・小原一成・松原誠 (防災科研)・植竹富一 (東京電力)
- 16:20 B60 相似地震活動から推定された1989年, 1992年三陸沖地震 (M7.1, M6.9) に先行する準静的すべり
内田直希・松澤暢・海野徳仁・長谷川昭 (東北大・理)・五十嵐俊博 (東大・地震研)
- 16:30 B61 すべり様式の多様性はいかにして生み出されるか? -地震発生サイクルシミュレーションによる一考察-
廣瀬仁 (名大院理)・平原和朗 (名大院環 境)
- 16:40 B62 岩脈貫入における群発地震の役割
鶴川元雄 (防災科研)
- 16:50 B63 トラップ波による2000年鳥取県西部地震の断層破碎帯の構造
桑原保人・今西和俊・儘田豊・伊藤久男 (産総研)・中村武史・安藤利彦・田中宏樹 (九大理)
- 11月13日
- 9:00 B64 微動探査のための円形アレイの変形方法
長郁夫 (地盤研究財団)、篠崎祐三 (東京理科大学)
- 9:10 B65 島根県出雲平野の微動特性調査
足立正夫 (米工高)・元木健太郎・瀬尾和夫 (東工大)
- 9:20 B66 見かけ比抵抗と微動H/Vによる表層S波速度構造の推定
山中浩明 (東工大・総合理工) 福元俊一, 入江紀嘉 (東京ソイルリサーチ)
- 9:30 B67 表面波探査におけるCMP解析
林 宏一 (応用地質株式会社)
- 9:40 B68 静岡県南部 (相良町・御前崎町) のS波速度構造
工藤一嘉・吉川正隆・津野靖士・坂上実
- 9:50 B69 高感度地震観測井VSPによる速度構造
山水 史生 (防災科学技術研究所)
- 10:00 B70 広帯域地盤応答のための堆積地盤構造のモデル化
香川敬生 (地盤研究財団)
- 10:10 B71 反射法地震探査結果に基づく2000年鳥取県西部地震時のKiK-net日野地点における基盤地震動の推定
東貞成, 阿部信太郎 (電力中央研究所)
- 10:20 B72 深発地震記録を用いた足柄平野への入射波動場の評価 -2000年8月6日鳥島近海の地震(MJ=7.3,H=444km)の解析-
植竹富一 (東京電力・技開研), 工藤一嘉 (東大・地震研)
- 10:30 休憩
久田嘉章 (工学院大学) 吉村智昭 (大成建設) Antonio Fernandez (Carnegie

10:35	B73	崖地形の3次元地震動解析ー崖地形によるエッジ効果についてー	Mellon University) Jacobo Bielak (Carnegie Mellon University) 津野靖士 (東京大学)
10:45	B74	不均等・不連続グリッドおよび時間刻みの変化を考慮した差分法による3次元波動伝播解析法	° 永野正行 (鹿島小堀研究室)
10:55	B75	1984年長野県西部地震のやや長周期地震動のシミュレーションー関東平野の3次元構造が与える影響ー	° 山田伸之 (東工大総理工) ・ 山中浩明 (東工大総理工) ・ 小山信 (国土技術政策総合研究所)
11:05	B76	大阪平野北縁部における地震動アレイ観測と地震動特性(その3)	° 上林宏敏 (広島国際大)、堀家正則 (大阪工大)
11:15	B77	2000年鳥取県西部地震および2001年芸予地震の観測記録にみられる地盤特性の評価	° 内山泰生 (大成建設) ・ 翠川三郎 (東工大総合理工)
11:25	B78	サイト増幅スペクトルによる震度増加量の推定式	° 澤田純男 (京大防災研) ・ 鶴来雅人 (地盤研究財団) ・ 宮島昌克 (金沢大工) ・ 北浦勝 (金沢大工)
11:35		趣旨説明	
11:40	B79	地震波の減衰,散乱とエンベロープ	° 干場充之 (気象庁精密地震観) ・ 斉藤竜彦 (東北大・理)
12:00	B80	P波初動部の平均的傾きの距離に伴う減少について	° 東田進也、小高俊一、芦谷公稔 (鉄道総合技術研究所 防災科学技術研究部) 上垣内修 (気象庁地震火山部) 干場充之 (気象庁 精密地震観測室)
14:00	B81	インバージョンによる地殻・上部マントルのQ構造と強震動予測	° 中村亮一 (東電設計)
14:20	B82	北海道・東北日本で見られる地震波の伝播・減衰異常(2): 3次元数値シミュレーション	° 古村孝志 (東大地震研)
14:30	B83	強震ネットワークを用いた水平・上下最大加速度の距離減衰	堀家正則 (大阪工業大学) ・ ° 西村利光 (大阪工業大学大学院) ・ 大谷直美
14:40	B84	東北日本の異常震域に対応した距離減衰式の補正項	° 森川信之・神野達夫 (防災科研) ・ 成田章 (MSS) ・ 藤原広行 (防災科研) ・ 福島美光 (清水建設)
14:50	B85	島弧における上部マントルのQs構造	° 前田宜浩・笹谷努 (北大理)
15:00	B86	Estimation of Q-value in Kinki Region Using Ray Theory Elastic Attenuation in 3D Velocity Model	° Petukhin Anatoly, Irikura Kojiro, Kagawa Takao, Ohmi Shiro
15:10	B87	伝播経路のQs値の振動数依存性ー既往研究のレビューと問題提起ー	° 加藤研一・武村雅之・池田孝 (鹿島小堀研究室)
15:20		休憩	
15:30	B88	堆積地盤のQ値評価の現状と今後の課題	° 小林喜久二 (竹中工務店技研)
15:50	B89	未固結堆積物中の粗密波の減衰	° 小林芳正 (地質計測)
16:00	B90	鉛直アレーデータに基づく斜め入射を考慮した地盤の減衰定数の焼き鈍し法による逆	° 佐藤智美 (大崎総合研究所)

		解析	
16:10	B91	KiK-netデータを用いた大阪平野地盤Q値	◦ 堀家正則
16:20	B92	堆積地盤の速度構造を事前情報としたスペクトルインバージョン	◦ 小林喜久二(竹中工務店技研)・植竹富一(東京電力)・真下貢(東電設計)・小林啓美
16:30	B93	堆積地盤におけるP波減衰とS波減衰の関係	◦ 吉田治雄・小林喜久二(竹中工務店技研)
16:40	B94	名古屋市山王における地盤Qs値の同定	◦ 南雲秀樹
16:50	B95	関東平野西部における堆積層の上下方向の不均質特性と人工地震波伝播	◦ 早川崇・佐藤俊明(清水建設和泉研究室)
C会場			
11月11日			
10:00	C01	S波ランドストリーマーの開発と断層表層構造探査への利用	◦ 稲崎 富士(土木研)
10:10	C02	名古屋大学高山地震観測点の移設	◦ 藤井巖・山内常生(名大理)
10:20	C03	First arrival time determination using automated method	◦ A. Gorbatoov・S. Tsuboi(IFREE)
10:30	C04	REIS(リアルタイム地震情報システム)の開発におけるマグニチュードの決定について	◦ 根岸弘明・堀内茂木・阿部華奈(防災科研)
10:40	C05	地震波動場のモニタリングによるリアルタイム地震解析システム(2)	◦ 鶴岡弘・川勝均・ト部卓・鷹野澄・山中佳子(東大地震研)
10:50	C06	携帯電話向け地震情報サーバの構築	◦ 横山博文(気象研究所)
11:00	C07	地震観測における「ブロードバンド」の利用	◦ ト部 卓・芹澤正人・辻 浩(東大地震研)・石田康直(白山工業)・小林博昭(ソネット)
11:10	C08	非均質断層の詳細な滑り過程についての実験研究	◦ 雷 興林(産総研)馬 勝利・劉 力強(中国地震局)
11:20	C09	模擬き裂面の安定せん断すべりのAE発生挙動における有効垂直応力とすべり速度の影響	◦ 根本克己・森谷祐一・新妻弘明(東北大院工地球)・中谷正生(東大地震研)・Keith F. Evans (ETH, Zurich)
11:30	C10	Intrinsic and apparent cutoff times of logarithmic healing; theory and experiments.	◦ 中谷 正生 (東大地震研)
11:40	C11	地殻応力飽和の可能性と地震発生	◦ 坂田正治(防災科技研)
11:50	C12	地震発生環境条件下におけるアプライトのせん断破損構成則の性質	◦ 加藤愛太郎(IFREE・JAMSTECおよび東大地震研)・吉田真吾・望月裕峰(東大地震研)
13:00	C13	深部地下水上昇による地表面現象 - 山口県岩国市の浅層地下水への深部高温水噴出 -	◦ 佃 為成(東大地震研)・佐藤 修(新潟大災害研)
13:10	C14	地震にともなう地下水位変化を生じた帯水層の水理・物性定数の時間変化 - 静岡県榛原観測井 -	◦ 松本則夫(産業技術総合研究所), E. A. Roeloffs(米国地質調査所)
13:20	C15	ACROSSが捉えた鳥取県西部(Mw6.6), 芸予(Mw6.4)地震に伴うクラックの選択配	◦ 生田 領野・山岡 耕春(名大院環境)

向と間隙水圧の伝播

13:30	C16	長町-利府断層周辺の3次元地震波速度構造	<ul style="list-style-type: none"> ° 中島淳一・長谷川昭（東北大）・堀内茂木（防災科研）・吉本和生・海野徳仁・岡田知己（東北大） ° 中村美加子、笠原順三、望月公廣、山田知朗、金沢敏彦（東大・地震研）、日野亮太、西野実、桑野亜佐子、久野智晴（東北大）、佐藤利典（千葉大）中村恭之（東大・海洋研）
13:40	C17	OBS・エアガン観測による三陸沖における沈みこみ境界からの反射相の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ° ペイマン・プール・モガダム、笠原順三、望月公廣（東大・地震研）藤江剛（海洋科学技術センター）
13:50	C18	Wave-field approach to the controlled source seismic experiments at the Japan Trench region using the FDM method	<ul style="list-style-type: none"> ° ペイマン・プール・モガダム、笠原順三、望月公廣（東大・地震研）藤江剛（海洋科学技術センター）
14:00	C19	東北地方南部プレート境界地震発生帯の深部構造（3）	<ul style="list-style-type: none"> ° 西野実・日野亮太（東北大・理）・篠原雅尚（東大・震研） ° 小平秀一、仲西理子、伊藤亜妃、金田義行（海洋科学技術センター、固体地球統合フロンティア）飯高隆、蔵下英司、佐藤比呂志、岩崎貴哉（東大地震研） ° 小池勝彦・山岡耕春・山崎文人（名大環境学）、森谷武男、熊川郁哉（北大理）、岩崎貴哉、飯高隆、武田哲也、蔵下英司、河村知徳（東大震研）、青木元（気象研） ° 吉本和生・藤澤宏篤・岡田知己・海野徳仁・長谷川昭（東北大）・小原一成（防災科研）・塚原弘昭（信州大）・岡本茂・川中卓（地科研）・佐藤比呂志（東大地震研）・佐藤春夫・大竹政和（東北大）
14:10	C20	中部日本海陸統合地震探査－陸域、海域観測結果と統合データ解析－	<ul style="list-style-type: none"> ° 小池勝彦・山岡耕春・山崎文人（名大環境学）、森谷武男、熊川郁哉（北大理）、岩崎貴哉、飯高隆、武田哲也、蔵下英司、河村知徳（東大震研）、青木元（気象研） ° 吉本和生・藤澤宏篤・岡田知己・海野徳仁・長谷川昭（東北大）・小原一成（防災科研）・塚原弘昭（信州大）・岡本茂・川中卓（地科研）・佐藤比呂志（東大地震研）・佐藤春夫・大竹政和（東北大）
14:20	C21	東海中部構造探査実験による地殻構造の推定	<ul style="list-style-type: none"> ° 吉本和生・藤澤宏篤・岡田知己・海野徳仁・長谷川昭（東北大）・小原一成（防災科研）・塚原弘昭（信州大）・岡本茂・川中卓（地科研）・佐藤比呂志（東大地震研）・佐藤春夫・大竹政和（東北大）
14:30	C22	糸魚川-静岡構造線周辺における臨時地震観測と下部地殻構造の推定を目的として	<ul style="list-style-type: none"> ° 水野高志・西上欽也（京大防災研）・伊藤久男・桑原保人（産総研）
14:40	C23	自然地震にみられる断層トラップ波の解析による茂住・祐延断層の深部構造	<ul style="list-style-type: none"> ° 水野高志・西上欽也（京大防災研）・伊藤久男・桑原保人（産総研）
14:50		休憩	
15:00	C24	西南日本－鳥取沖における深部地殻構造探査	<ul style="list-style-type: none"> ° 佐藤比呂志（東大震研）・2002四国横断地殻構造探査グループ ° 伊藤谷生・田中環・児島悠司・津村紀子・宮内崇裕（千葉大）・佐藤比呂志・平田直・岩崎貴哉（東大）・村田明広（徳島大）・長谷川修一（香川大）・井川猛・大西正純・小澤岳史・岡本茂（地科研）・瀬戸内海横断地殻構造探査グループ・2002四国横断地殻構造探査グループ
15:10	C25	西南日本横断地殻構造探査	<ul style="list-style-type: none"> ° 佐藤比呂志（東大震研）・2002四国横断地殻構造探査グループ ° 伊藤谷生・田中環・児島悠司・津村紀子・宮内崇裕（千葉大）・佐藤比呂志・平田直・岩崎貴哉（東大）・村田明広（徳島大）・長谷川修一（香川大）・井川猛・大西正純・小澤岳史・岡本茂（地科研）・瀬戸内海横断地殻構造探査グループ・2002四国横断地殻構造探査グループ
15:20	C26	西南日本海陸統合地殻構造探査発破による四国横断低重合法反射法地震探査	<ul style="list-style-type: none"> ° 佐藤比呂志（東大震研）・2002四国横断地殻構造探査グループ ° 伊藤谷生・田中環・児島悠司・津村紀子・宮内崇裕（千葉大）・佐藤比呂志・平田直・岩崎貴哉（東大）・村田明広（徳島大）・長谷川修一（香川大）・井川猛・大西正純・小澤岳史・岡本茂（地科研）・瀬戸内海横断地殻構造探査グループ・2002四国横断地殻構造探査グループ
15:30	C27	瀬戸内海横断深部地殻構造探査（速報）	<ul style="list-style-type: none"> ° 高橋成実・小平秀一・朴進午・鶴哲郎・末広潔（海洋センター）、John DIEBOLD (LDEO)
15:40	C28	海底地震計とマルチチャンネル反射法データによる南海トラフ地震発生帯西部の不均質構造	<ul style="list-style-type: none"> ° 高橋成実・小平秀一・朴進午・鶴哲郎・末広潔（海洋センター）、John DIEBOLD (LDEO)

15:50	C29	2000年鳥取県西部地震の震源域におけるS波偏向異方性(2)	° 中村武史・竹中博士・鈴木貞臣(九大・理)
16:00	C30	西南日本の地震活動とS波偏向異方性	° 飯高隆 (東大地震研)
16:10	C31	遠地地震を用いた台湾の地殻及び上部マントル構造の解析	° 本田史紀・平田直・蔵下英司・酒井慎一(東大地震研)・黄柏壽(台湾中央研究院)・顔宏元(台湾国立中央大学)
16:20	C32	雲仙火山下に見られる反射面	° 渡邊篤志・松本 聡・植平賢司・清水洋(九州大)
16:30	C33	Structural constraints on subduction megathrust earthquakes in Hyuga-nada region	° Jin-Oh PARK, Tetsuro TSURU, Shuichi KODAIRA, Takane HORI, and Yoshiyuki KANEDA (All at: Institute for Frontier Research on Earth Evolution, JAMSTEC)
16:40	C34	人工地震探査による東南極・みずほ高原下の地殻構造-JARE43-	° 宮町宏樹(鹿児島大)・松島 健(九州大)・戸田 茂(愛教大)・渡邊篤志(九州大)・山下幹也(総研大)・金尾政紀(極地研)・高田真秀(北大)
11月12日			
9:00	C35	東海地域推定固着域における地震活動状況の変化(その5:メカニズム変化)	° 松村正三(防災科研)
9:10	C36	東北地方における固有地震の地震活動の検出	長谷川安秀, ° 橋本徹夫, 草野富二雄, 吉川一光, 大西星司(仙台管区気象台)
9:20	C37	規模別頻度分布の改良G-Rモデルに基づく最大地震規模Mcの空間分布-東北日本の太平洋側海域-	° 馬淵弘靖・大竹政和・佐藤春夫(東北大理)
9:30	C38	静穏化のマッピングとその有意性について	° 塚越芳樹・島崎邦彦(東大地震研)
9:40	C39	Stochastic reconstruction of earthquakes and its application to foreshock studies	° Jiancang Zhuang (Department of Statistical Sciences, Graduate University for Adanced Studies) Yosihiko Ogata (Institute of Statistical Mathematics)
9:50	C40	空間的クラスタリングと活動度指数について	° 野口伸一(防災科研)
10:00	C41	紀伊半島下に沈み込んだフィリピン海スラブの形状:変形帯と二重地震面を中心として	° 三好崇之(神戸大院自然)・石橋克彦(神戸大都市安全)
10:10	C42	紀伊半島下のスラブ内でみられる応力軸の回転	° 馬場俊孝・堀高峰・金田義行(JAMSTEC)・P. Cummins(Geoscience Australia)・J. Townend(Stanford Univ.)
10:20	C43	八丈島で発生した長周期地震波の解析とその発生プロセスの考察	° 熊谷博之・宮川幸治・根岸弘明・井上公・小原一成(防災科研)・末次大輔(海洋科学技術センター)
10:30		休憩	
10:40	C44	海底地震計観測による1944年東南海地震破壊域周辺の地震活動	° 尾鼻浩一郎・小平秀一・三浦誠一・仲西理子・朴進午・MOE Kyaw Thu・金田義行(JAMSTEC)
10:50	C45	台湾東方海域における地震活動-日本と台湾のデータ統合による-	° 中村衛(琉球大学理学部), Cheng-Horng Lin (Academia Sinica)

11:00	C46	1999年台湾集集地震における余震の時空間分布	° 永井 悟・平田 直・酒井慎一（東大・地震研）・陳 國誠・黄 柏壽（台湾中央研究院）
11:10	C47	1994年三陸はるか沖地震(M7.6)の余効すべりは岩手山付近の地震活動をトリガーしたか？—数値実験に基づく検討—	° 里嘉千茂（東京学芸大教育）・浜口博之（東北大理）
11:20	C48	岩手山の地震活動と地殻変動の相関性（その1）：浅部地震活動について	° 佐藤峰司・浜口博之（東北大・予知セ）
11:30	C49	浅間火山で発生した2002年6月の群発地震活動	° 及川純・小山悦郎・辻浩（東大地震研）
11:40	C50	白山火山近傍での微小地震観測	° 高橋直季(金沢大自然)・三宅学(名大環境)・平松良浩(金沢大自然)・古本宗充(金沢大自然)・東野外志男(白山自セ)・平田直(東大地震研)
11:50	C51	最近の飛騨山脈の深部地震活動	° 大見士朗・和田博夫・伊藤潔（京大防災研）
12:00	C52	”とても低い”周波地震の検出（その3）:紀伊半島沖と南九州沖で発生したイベントの震源解析	° 石原 靖（横浜市立大学）山中佳子・菊地正幸（東大地震研）
14:00	C53	（社）日本地震学会広報委員会による学校教育と知識普及への試み	° 小泉尚嗣（産業技術総合研究所地質調査総合センター）・日本地震学会広報委員会
14:20	C54	地学とりわけ地震教育，次の10年に向けて	° 岡本 義雄（大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎）
14:40	C55	地震火山こどもサマースクール—3年間の成果と問題点	° 小山真人（静岡大教育）・中川和之（時事通信）
15:00	C56	静岡県防災教育基本方針について	° 井野盛夫（富士常葉大学）
15:20	C57	横浜市における地震防災への取組	° 斎藤正徳
15:40	C58	中学生向け教材用ソフト「地底三千マイルの旅—地震と火山のなぜにせまる—」の概要	伊藤和明(防災情報機構)・鍵山恒臣・吉田真吾(東大・震研)・桑原央治(都立大島高)・林敬三(林企画)・宮下敦(成蹊高)・° 松浦律子(地震予知振興会)
15:50		休憩	
16:00	C59	地学教育と情報教育	° 山崎謙介（東京学芸大 教育）・南島正重（都立向丘高校）・蓮沼 賢（横河電機（株））
16:10	C60	地学教育からの地震防災教育	° 南島 正重（東京都立向丘高等学校）
16:20	C61	教養科目としての地球科学	° 杉 憲子（共立女子大学）
16:30	C62	地震・火山・防災教育を総合的な学習の時間に取り入れるために	° 佐藤明子（平塚市立山城中学校）
16:40	C63	「地震を学べる大学一覧」作成の試み	° 根本泰雄（阪市大院理）・日本地震学会学校教育委員会「地震を学べる大学一覧」作成WG
16:50	C64	日本最大級地学学習リンクサイトの運用	° 福島 毅（千葉県立行徳高校）
11月13日			
9:00	C65	いわゆる金華山沖タイプの地震とアスペリティ The earthquake of	° 渡邊偉夫

9:10	C66	歴史地震の震源域位置および規模の系統的再検討—第4報—(1633年寛永小田原地震など10地震)	° 松浦 律子(地震予知振興会)・中村操・唐鎌 郁夫・茅野 一郎(防災情報サ)
9:20	C67	元禄関東地震(1703)による江戸市中の被害・震度の詳細分布	° 都司嘉宣 (東大地震研)
9:30	C68	江戸時代の千島海溝の地震活動を東北・関東地方の史料から推定する試み	° 佐竹健治 (産総研 活断層研究センター)
9:40	C69	17世紀に北海道東部で発生した異常な津波の波源モデル	佐竹健治 (産総研・活断層研究センター) 七山 太 (産総研・活断層研究センター) ° 山木 滋 (シーマス)
9:50	C70	2001年中国昆崙山中部Ms 8.1地震の地震断層のモール・トラック構造	° 林 愛明・付 碧宏・郭 建明 (静岡大学理学部)
10:00	C71	画像処理法Lamination Tracerの開発-縞状堆積物から高分解能地震記録を解読するための一次元系列データ作成-	° 勝田長貴 (北大理), 高野雅夫 (名大環境), 岡庭輝幸 (ユニバーサルデザイン総合研究所), 熊澤峰夫 (サイクル機構・東濃地科学センター)
10:10	C72	産総研・活断層研究センターの活断層データベース構想	° 吉岡敏和・伏島祐一郎・宮本富士香 (産総研活断層)
10:20	C73	横ずれ活断層の地形学的検知限界	° 金田平太郎 (京大理)
10:30	C74	京都盆地南部低地と八幡丘陵の境界は活断層か? -反射法地震探査から言えること-	° 横倉隆伸・加野直巳・山口和雄・田中明子・大滝壽樹・伊藤忍・宮地良典 (産総研 地球科学情報研究部門)
10:40		休憩	
10:50	C75	高ヒマラヤ下のデタッチメントにおけるランプ構造の時間発展メカニズム: ヒマラヤ山脈上昇過程への寄与	° 高田陽一郎 (東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻) 松浦充宏 (東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻) 木戸ゆかり°・鶴哲郎・仲西理子・金田義行・藤岡換太郎・「かいいい」KR00-04 および「よこすか」YK02-02乗船研究者 (海洋センター)
11:00	C76	日本海溝と千島海溝の接合点付近に沈み込む海山周辺の地球物理学的特徴	° 濱元栄起・山野誠(東大地震研)・徳山英一・辻健 (東大海洋研)・李昭興 (国立台湾海洋大)
11:10	C77	沖縄トラフ南西部熱水活動域における超高熱流量	° 木下正高 (海洋科学技術センター)・後藤秀作 (東大地震研)・三ヶ田均 (海洋科学技術センター)・KR02-10航海乗船研究者一同
11:20	C78	室戸沖南海トラフ付加体前縁部で観測された局所的な熱流量異常	° 山野 誠 (東大地震研)・大久保泰邦 (産総研)・宮越昭暢 (千葉大自然)・濱元栄起 (東大地震研)・カムチャッカ気候変動復元研究グループ
11:30	C79	カムチャッカ半島における孔井内温度・地表面温度の長期計測	° 上田英樹・藤田英輔・鶴川元雄・山本英二 (防災科研)
11:40	C80	傾斜およびGPSデータから推定された2000年6月26日~27日の三宅島のマグマ貫入過程	° 大久保正・山本英二・岡田義光 (防災科研)
11:50	C81	2002年5月に再発した伊東市周辺における地震・火山活動	° 木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之・メイラノ イルワン・太田雄策(名古屋大学)
12:00	C82	精密水準測量による御岳群発地震域の上下	

変動(1999-2002)

院環境)

- 14:00 C83 GPS連続観測による日本列島の上下地殻変動 ° 村上 亮 (国土地理院 地理地殻活動研究センター)
- 14:10 C84 年周地殻変動ふたたび ° 日置幸介 (国立天文台地球回転研究系)
- 14:20 C85 3次元変位場を考慮した東北日本におけるプレート間カップリングモデル(その2) ° 諏訪謡子・三浦 哲・長谷川 昭・佐藤俊也・立花憲司 (東北大院・理)
- 14:30 C86 関東地方の経年の地殻変動場とそのサイズ ° 宮下芳・鈴木貴彦 (茨城大理)・K.モテクトニクス VIJAYKUMAR (東海大海洋)
- 14:40 C87 関東・東海地方における地殻水平歪 ° 井濶陽平 (神戸大院自然)・石橋克彦 (神戸大都市安全)
- 14:50 C88 東海スローイベントに伴う歪変化 ° 吉川澄夫・山本剛靖 (気象研究所)
- 15:00 C89 東海地域のプレート間カップリングとその時間揺らぎの再検討 ° 太田雄策・木股文昭 (名大環境)
- 15:10 C90 地殻変動連続記録から求めた潮汐定数の時間変化と地震・火山活動 ° 廣瀬一聖 (富山大院理)・川崎一朗・和田安男 (京大防災研)・竹本修三 (京大院理)・岡田義光 (防災科技研)・小久保一哉 (気象庁精密地震観測室)
- 15:20 C91 茂住調査坑道における間隙水圧測定とその間隙弾性論的な解釈 ° 加納靖之・柳谷俊・山下太 (京大防災研)・石井紘 (東濃地震科学研)・山内常生 (名大環境)・浅井康広 (東濃地震科学研)
- 15:30 休憩
- 15:40 C92 剛体ブロック回転と弾性変形の同時推定モデル ° 西村宗・橋本学 (京大防災研)・安藤雅孝 (名大環境)
- 15:50 C93 1946年南海地震後に見られる複数の余効変動 ° 小林昭夫 (気象研究所)・吉田明夫 (地磁気観測所)
- 16:00 C94 2000年鳥取県西部地震の余効変動の再検討 ° 橋本 学, 伊藤武男 (京大防災研)
- 16:10 C95 高精度アンテナ可動台によるキネマティックGPS精度検証実験 - 通総研鹿島34mアンテナを利用した結果 - ° 三浦 哲・アーロン スィーニー・藤本 博巳 (東北大・院理)・大崎 裕生・川合 栄治・市川 隆一・近藤哲朗 (通総研鹿島)
- 16:20 C96 無人探査機による音響トランスポンダの観察と交換 ° 藤本博巳・スウィーニィ アーロン・内田直希・三浦哲 (東北大理)・小泉金一郎 (東大海洋研)・長田幸仁 (東大地震研)
- 16:30 C97 海底地殻変動くり返し観測の実現 ° 田所敬一・安藤雅孝・三宅 学・杉本慎吾・奥田 隆 (名大環境)・長尾年恭・佐柳敬造 (東海大学)・村上英幸・川上太一 (海洋電子)
- 16:40 C98 Ocean Bottom Crust Deformation Measurement - the Indirect Acoustic Location Algorithm ° Wojciech Debski (核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)・田所敬一・三宅学・杉本慎吾・奥田隆・安藤雅孝 (名古屋大学)
- 16:50 C99 駿河湾での海底地殻変動観測 ° 三宅学・安藤雅孝・田所敬一・杉本慎吾・奥田隆 (名古屋大学環境学研究科)・Wojciech DEBSKI (核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)・長尾年恭・佐柳敬造 (東海大学海洋研究所)・村上英幸・

P会場
11月11日
地震一般

17:00	P001	震源断面を自動的に推定する手法	° 堀貞喜（防災科研）
17:00	P002	センサーアレイで取得されるACROSSデータの存否イベント解析	° 羽佐田葉子，熊澤峰夫（サイクル機構，東濃地科学センター）
17:00	P003	花崗岩中の地質構造を対象とした反射法弾性波探査の適用	° 松岡稔幸・上原大二郎・藪内聡・中野勝志（サイクル機構，東濃）、太田陽一・川中卓（地科研）
17:00	P004	西南日本における大学合同地震観測	西南日本大学合同地震観測グループ・° 片尾 浩（京大防災研）
17:00	P005	フィリピン海スラブの形状（1）－関東地域から九州地域まで－	° 石田瑞穂・坂無雅子（防災科学技術研究所）
強震動・地震災害			
17:00	P006	Comparison of landslides disasters in El Salvador and Kagoshima-Japan due to earthquakes and heavy rain	° Walter Salazar(Tokyo Institute of Technology,Universidad Centroamericana), Kazuoh Seo(Tokyo Institute of Technology)
17:00	P007	2001年2月エルサルバドル地震によるサンビセンテ市内の被害区分	° 精木紀男(関東学院大学工学部)、吉川勉(関東学院大学大学院生) ロベルトロドリゲス(中央アメリカ大学工学部学生)
17:00	P008	1999年テウアカン地震によるテウアカン市内の被害と地盤の常時微動観測	° 精木紀男(関東学院大学工学部)、正木和明(愛知工業大学)、イサク バルデラス ロメロ(テウアカン市役所)、パブロアマドル プエルトス(テウアカン工業大学)、アレハンドロ ヒル セペダ(テウアカン工業大学)、精木とも子(メキシコ自治大学大学院)、吉川勉(関東学院大学大学院)
17:00	P009	Istanbul Earthquake Rapid Response and Early Warning System	° O. Ozel, M. Erdik, H. Alcik, A.Mert and M. Gul
17:00	P010	トルコ共和国における広域震源情報推定システムの構築	° 香川敬生(地盤研究財団)・CORUH Engin(ERD)・鈴木貞臣(九州大院)・太田裕(東濃地震科研)
17:00	P011	早期被害情報把握システムの開発及び被害調査への適用	° 柴山明寛・小山洋介(工学院大学),南栄治郎((株)ネットウェブ),久田嘉章(工学院大学)
17:00	P012	強震観測網・基盤強震観測網データによる震度相当値情報	° 功刀 卓・藤原広行(防災科研)
17:00	P013	地震記録における地震波初動到達時刻の自動検測	° 赤澤隆士(地盤研究財団)
17:00	P014	3次元速度構造を考慮した震源インバージ	° 八木勇治(建築研究所)・古村孝志(東

		ジョン (1)	京大学地震研究所)
17:00	P015	1978年宮城県沖地震の波形インバージョン解析 - 小地震記録に基づく理論的グリーン関数の検証 -	° 加藤研一・武村雅之(鹿島小堀研究室)・池浦友則(鹿島技術研究所)
17:00	P016	3次元グリーン関数を用いた震源過程の解析 (1) - グリーン関数の計算と簡単な解析例 -	° 大野大地(茨城大理)・額額一起(東大地震研)・池上泰史(CRC solutions)
17:00	P017	経験的グリーン関数法で中間周波数帯域の落ち込みが生じる原因の再吟味とシンプルな解決方法	° 野津厚 (港空研)
17:00	P018	強震動シミュレーションのためのすべり速度時間関数の近似式 (3)	° 宮武隆(東大地震研)
17:00	P019	従来の震源インバージョンの結果から時間空間的に連続なすべり時間関数を抽出する方法	° 竹中博士・藤井雄士郎(九大・理)・川瀬博(九大・人環)・宮腰研(地盤研究財団)・岩田知孝(京大防災研)
17:00	P020	Analysis on the reliability and resolution of the earthquake source history inferred from waveforms	° Shiyong Zhou (Peking University, China) Kojiro Irikura (DPRI, Kyoto University, Japan) (Gokasho, Uji, Kyoto 611-0011, Japan)
17:00	P021	The Dynamic Rupture Process of the 1999 Chi-Chi Earthquake and the Simulation on the Near-field Strong Ground Motion	° Wenbo Zhang, Tomotaka Iwata, Kojiro Irikura (DPRI, Kyoto University, Gokasho, Uji, Kyoto 611-0011) Haruko Sekiguchi (Active Fault Research Center, Geological Survey of Japan)
17:00	P022	Estimation of Site Effects and Q factor using a Reference Event	° Aaron Moya, Kojiro Irikura DPRI, Kyoto University Gokasho, Uji-shi, Kyoto 611-0011
17:00	P023	3D Shear Dynamic Rupture Model and Ground Motion Simulation Using Finite-Difference Method with Variable Grid Spacing	° Dalguer L.A., Irikura K, (2) Pitarka A. and Zhang W (1) Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, Japan (2) URS Corporation, U.S.A. ° Nelson PULIDO (Earthquake Disaster
17:00	P024	Strong Ground Motion Estimation in the Marmara Sea Region (Turkey) Based on a Scenario Earthquake	Mitigation Research Center EDM, NIED, Japan) Anibal OJEDA, Kuvvet ATAKAN (Institute of Solid Earth Physics, University of Bergen, Norway) and Tetsuo KUBO (EDM, NIED / Dept. Architecture, Nagoya Institute of Technology, Nagoya, Japan).
17:00	P025	1936年河内大和地震の強震動シミュレーション	° 堀川晴央・佐竹健治・関口春子・加瀬祐子(産総研・活断層研究センター)・Arben Pitarka (URS Corporation)
17:00	P026	確率論的地震動予測地図作成手法の検討	° 石井透・藤原広行・早川讓・河合伸一・青井真(防災科研)・奥村俊彦・石川裕・宮腰淳一・斎藤知生(清水建設)・篠原秀明(応用地質)・翠川三郎(東京工業大学) ° 石井透・藤原広行・青井真(防災

17:00	P027	活断層と海溝型のシナリオ地震による地震動予測地図作成手法の検討	科研)・佐藤俊明・渡辺基史(大崎総研)・佐藤智美・松島信一・早川 崇(清水建設)・篠原秀明(応用地質)・先名重樹(MSS)・入倉孝次郎(京都大学)・早川 讓・藤原広行(防災科研)、°岩本鋼司・鈴木晴彦・野崎京三・滝沢文教・篠原秀明(応用地質)、早川 崇・佐藤智美(清水建設)、入倉孝次郎(京都大学)
17:00	P028	想定宮城県沖地震の地震動予測のための深部地盤構造	早川 讓・藤原広行・青井 真(防災科研)、°岩本鋼司・鈴木晴彦・野崎京三・石沢一吉・篠原秀明(応用地質)、早川 崇・松島信一・佐藤俊明(大崎総研)、入倉孝次郎(京都大学)
17:00	P029	想定糸魚川-静岡構造線断層帯地震の地震動予測のための深部地盤構造	°神野達夫(防災科学技術研究所), 森川信之(防災科学技術研究所), 先名重樹(三菱スペース・ソフトウェア株式会社), 成田 章(三菱スペース・ソフトウェア株式会社), 藤原広行(防災科学技術研究所)
17:00	P030	森本・富樫断層帯周辺の深部地盤モデル	°小谷明・古村孝志(東大地震研)・平原和朗(名大環境)
17:00	P031	濃尾平野の3次元構造と強震動 - 3次元数値シミュレーション -	°趙 伯明・香川敬生・宮腰 研(地盤研究財団)
17:00	P032	地震記録のシミュレーションによる大阪堆積盆地の3次元地下構造モデルの検証(3)	
地球及び惑			
17:00	P033	有限周波数表面波のセンシティブィティーカーネル	°吉澤 和範(北大理)・B.L.N. ケネット(オーストラリア国立大)
17:00	P034	アドミッタンスから推定される地殻構造を考慮した全球リソスフェアの構造	°木戸元之(学振・科技特)
17:00	P035	アクロス計測による複素誘電率スペクトル測定 II. 固体イオン伝導体の誘電分散	°松本裕史・茂田直孝・熊澤峰夫・中島崇裕(サイクル機構)
17:00	P036	東北日本弧マントルウエッジの温度不均質と流体分布	°中島淳一・長谷川昭(東北大)
17:00	P037	再結晶化したカンラン石の観察とEDS・XRD分析	°金澤英樹(京大人環)・伊東和彦(南大阪大経営)・佐藤博樹(阪大理)・玉田攻(京大人環)
17:00	P038	南極下の内核境界付近の地震波速度構造	°大滝壽樹(産総研)、金嶋聡(東工大)、神定健二(気象研)、Ibnu Purwana(BMG, Indonesia)
17:00	P039	コア・マントル境界Dコア・マントル境界D”層サイレント地震-その3-	京大防災研°川崎一朗)
17:00	P040	2002年8月19日フィジー深発地震(MW7.7)からのP'P'先駆波の解析	°中西一郎(京大理)・大見士朗(京大防災研)・古館友通(気象庁精密地震観)
17:00	P041	南極昭和基地のデータを用いた最下部マントルにおけるS波速度異方性について	°臼井佑介・平松良浩・古本宗充(金沢大・自然)
-----	-----	広帯域S-P走時差を用いた全マントルS波	°大木聖子(東大地震研)・深尾良夫(東大

17:00	P042	トモグラフィー～解析手法～	地震研、固体地球統合フロンティア)・大林政行(固体地球統合フロンティア)
17:00	P043	中部地方のフィリピン海スラブの折れ曲がり	。本多茂喜・中西一郎(京大理)
17:00	P044	沈み込み帯のP波異方性速度構造－東北日本弧－	。石瀬素子(岡山大学)・小田仁(岡山大学)
17:00	P045	WP2北西太平洋孔内地震計データを用いた北西太平洋下の上部マントル構造	。荒木英一郎(JAMSTEC)・篠原雅尚・中東和夫・金沢敏彦(東大地震研)・末広潔(JAMSTEC)
17:00	P046	sScSの反響を用いた日本列島下の660km不連続面の深さ分布	。山田 朗(愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)
内陸地震発			
17:00	P047	微小地震クラスターと地質構造の関連性について	。阿部信太郎・青柳恭平(電中研)
17:00	P048	牛伏寺断層近傍の地殻応力、岩盤、比抵抗構造－活断層ドリリングによる結果－	。小村健太郎(防災科研)・池田隆司(北大・理)・松田達生(防災科研)・水落幸広(住鉱コンサル)
17:00	P049	ひずみ集中帯に位置する跡津川断層系－稠密GPS観測によるひずみ速度場の詳細解析－	。大井陽一、平原和朗、安藤雅孝(名大)、細善信、和田安男、大倉敬宏(京大)
17:00	P050	GeoFEMを用いた西南・中部日本の陸域震源断層への応力蓄積過程のモデル化	。兵藤守(名大理)・平原和朗(名大環境)
地下水・地			
17:00	P051	山陰地方における温泉観測ネットワーク(その1)	。西田良平(鳥取大)・渡辺邦彦(京大防災研)・小泉尚嗣(産総研)・野口竜也(鳥取大)・矢部征・小田由香(京大防災研)・今西将文((株)ウエスコ)
地殻構造			
17:00	P052	東南極・みずほ高原における人工地震探査実験－JARE43－	。宮町宏樹(鹿児島大)・松島 健(九州大)・戸田 茂(愛教大)・高田真秀(北大)・高橋康博(日本油脂)・神谷大輔(白山工業)・渡邊篤志(九州大)・山下幹也(総研大)・柳沢盛雄(極地研)
17:00	P053	JARE43人工地震探査測線上での重力及びGPS測定	。戸田 茂(愛教大)・神谷大輔(白山工業)・高田真秀(北大理)・松島 健(九大理)・宮町宏樹(鹿大理)・金尾政紀(極地研)・福田洋一(京大理)
17:00	P054	JARE43人工地震探査データにおける反射法解析の初期結果	。山下幹也(総研大・極地研)・宮町宏樹(鹿児島大)・松島 健(九大)・戸田 茂(愛教大)・渡邊篤志(九大)・高田真秀(北大)・金尾政紀(極地研)
17:00	P055	遺伝アルゴリズムを用いたレシーバー関数インバージョンによる南極大陸縁辺部の地殻内S波速度	。1金尾政紀(極地研)・渋谷拓郎(京大防災研)・久保篤規(防災科研) 。M. Kanao (National Institute of Polar Resaerch), H. Miyamachi (Faculty of Science, Kagoshima University), S. Toda (Faculty of Education, Aichi Education University), H. Murakami

			(Earthquake Observation Research Technology Center), T. Tsutsui (Faculty of Engineering and Resource Science, Akita University), T.
17:00	P056	MULTIDISCIPLINARY SURVEYS BY STRUCTURE AND EVOLUTION OF THE EAST ANTARCTIC LITHOSPHERE TRANSECT: SEAL-2000, -2002	Matsushima (Institute of Seismology and Volcanology, Kyushu University), M. Takada (Institute of Seismology and Volcanology, Hokkaido University), A. Watanabe (Institute of Seismology and Volcanology, Kyushu University), M. Yamashita (Department of Polar Science, The Graduate University for Advanced Studies), K. Yoshii (Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University) and SEAL Geotransect Group
17:00	P057	三陸沖日本海溝沿い陸側斜面下における浅部地殻内S波速度構造	° 望月公廣、笠原順三、中村美加子、山田知朗、金沢敏彦(東大・地震研) 日野亮太、西野実、桑野亜佐子、久野智晴(東北大学・理) 佐藤利典(千葉大・理) 中村恭之(東大・海洋研) ° 高橋成実・三浦誠一・小平秀一・鶴哲郎・仲西理子・朴進午・金田義行・末広潔・木下肇(海洋センター)・阿部信太郎(電力中央研究所)・西野実・日野亮太(東北大理)
17:00	P058	日本海溝三陸沖の速度構造	鶴哲郎、朴進午、° 三浦誠一、木戸ゆかり、金田義行(海洋科学技術センター)
17:00	P059	青森沖日本海溝前弧域における地殻構造の空間変化	° 菊池伸輔・鈴木和子・伊藤谷生・津村紀子・香束卓郎(千葉大理)・在田一則・森谷武男(北大理)・斎藤秀雄・川中卓・小澤岳史・井川猛(地科研)
17:00	P060	反射法・屈折法地震探査による日高衝突帯南部地殻構造の準3次元解明	° 井川 猛(地科研)・笹谷 努(北大)・岡田 廣(北大名誉教授)・太田陽一・清水信之・東中基倫(地科研)
17:00	P061	石狩平野北西縁におけるバイプロサイス反射法調査の試み	° 西田良平(鳥取大工)・平田直(東大震災研)・伊藤潔・梅田康弘(京大防災研)・井川猛・大西正純(地球科研)
17:00	P062	鳥取県西部地域の地下構造調査(その1)	° 河村知徳・中川茂樹・平田 直・蔵下英司・山中佳子・武田哲也・永井 悟・本田史紀(東大地震研)・大西正純・井川 猛(地科研)
17:00	P063	大容量デジタルレコーダを用いた制御震源地震探査による鳥取県西部地域の地殻不均質構造	° 中川茂樹・河村知徳・平田 直・蔵下英司・山中佳子・武田哲也・永井 悟・本田史紀(東大地震研)・大西正純・井川 猛(地科研)
17:00	P064	大容量デジタルレコーダを用いた自然地震観測による鳥取県西部地域の地殻不均質構造	° 阿部信太郎・青柳恭平・宮腰勝義・井上(電力中央研究所)
17:00	P065	2000年鳥取県西部地震震源域の地殻構造	

		と茶震分布の関連性について	大木 (電中研)
17:00	P066	2000年鳥取県西部地震の断層直上アレー で観測されたS波偏向異方性	° 中村武史・安藤利彦・田中宏樹・竹中博 士(九州大)・桑原保人・儘田 豊・今西和 俊(産総研)
17:00	P067	稠密地震観測データを用いた長野県西部地 域の3次元速度構造	° 関口涉次(防災科研)・飯尾能久・大見 士朗(京大防災研)・伊藤久男(産総 研)・堀内茂木(防災科研)
17:00	P068	跡津川断層系およびその周辺における地下 構造と地震活動	伊藤潔・松村一男・和田博夫・吉井弘 治・° 上野友岳(京大防災研)
17:00	P069	跡津川断層の深部構造を探るための地震観 測(序報) - クリープ/ロック域の断層 構造と地震発生特性 -	° 藤沢 泉・西上欽也・水野高志(京大防 災研)・田所敬一(名大環境)・伊藤 潔・和田博夫(京大防災研)
17:00	P070	伊豆・小笠原弧30-31° Nの地殻構造	° 西澤あずさ・金田謙太郎・瀬田英憲・寺 井賢一・吉田剛・横尾藏・谷伸(海洋情報 部)・仲西理子・高橋成実・小平秀一・徐 垣・金田義行・末広潔(JAMSTEC)
17:00	P071	Multichannel seismic reflection image across the Izu-Bonin island arc system: preliminary results	° Jin-Oh PARK, Tetsuro TSURU, Yukari KIDO, MOE Kyaw Thu, Shuichi KODAIRA, Yoshiyuki KANEDA (Institute for Frontier Research on Earth Evolution, JAMSTEC) Narumi TAKAHASHI (Deep Sea Research Department, JAMSTEC) Kazuki WATANABE, Katsunobu TANIGUCHI (Hydrographic and Oceanographic Department of Japan)
17:00	P072	三宅島・神津島近海の3次元速度構造	° 萩原弘子・酒井慎一・山田知朗・金沢敏 彦(東大地震研)・西澤あずさ(海上保安 庁)
17:00	P073	高密度人工地震探査データによる淡路島北 部地域の微細不均質構造	° 出町知嗣・長谷見晶子(山形大理)・岩崎 貴哉(東大地震研)
17:00	P074	雲仙岳・南千本木における稠密地震計アレ イ観測による不均質構造推定	° 松本聡, 植平賢司, 松尾のり道, 中村めぐ み, 清水 洋, 内田和也, 福井理作(九大・地 震火山センター), 小原一成(防災科学技術 研究所)
17:00	P075	短スパン3成分アレイ観測を用いた散乱波 のセンブルランスおよび偏向面解析	° 平貴昭・蓬田清(北大・理)
11月12日			
地震計測・			
13:00	P076	回転型ACROSS震源装置の新制御方式	° 國友孝洋・熊澤峰夫(サイクル機構)
13:00	P077	ACROSS送受信技術を用いた地震計二 次校正新手法の提案 ~ 「簡単・正確・即 実用」をめざして~	° 鶴我佳代子(サイクル機構)・國友孝洋 (サイクル機構)・熊澤峰夫(サイクル機 構)・茂田直孝(サイクル機構)
13:00	P078	PS変換波取得をめざしたエアガンアレイ 指向性実験(2)	° 三浦誠一1、笠原順三2、鶴哲郎1、朴進 午1、藤江剛1、小平秀一1、金田義行 1 (1:海洋科学技術センター 固体地球統 合フロンティア研究システム、2:東京大学 地震研究所)
			° 松島 健(九州大)・山下幹也(総研)

13:00	P079	南極ペネトレータの開発および試験観測	大)・安原達二・堀口 浩(朝日航洋)・ 澁谷和雄(極地研)
13:00	P080	無定位回転型振り子を使った広帯域・高感 度サーボ型地震計の開発	° 大竹雄次, 新谷昌人(東京大学地震研究 所)
13:00	P081	TCP/IPプロトコルスタックLSI/ PHSカードモデムを用いたリモート計 測回路キットの設計と試作	° 田中英明・高見友幸(大阪電通大)
13:00	P082	オープンリール型磁気テープ(MT)に保 存されたデータの現存するデバイスでの復 元	° 中野優(名大環境学)・熊谷博之(防災 科研)
13:00	P083	北大・サハリン間でのインターネットによ るリアルタイム地震波形交換	° 一柳昌義・高橋浩晃・笠原稔(北大理)・ SEN Rak Se(サハリン地震観測所)
13:00	P084	Hi-net地震計設置方位の推定	° 汐見勝彦・小原一成・笠原敬司(防災科 研)
13:00	P085	KiK-net地中埋設地震計の設置方位の推定 -九州地方の観測点に対する検討-	° 山添正稔・加藤研一・武村雅之(鹿島小 堀研究室)
13:00	P086	REIS(リアルタイム地震情報システム)によ って決定された震源要素の精度	° 岩田貴樹・上村彩・三浦昇平・阿部華 奈・林能成・堀内茂木(防災科研)
13:00	P087	REIS(リアルタイム地震情報システム)に おける震央方位も用いた震源決定	° 上村彩・堀内茂木・岩田貴樹(防災科 研) ° 林能成・三浦昇平(ASTOM R&D/防災 科研)・堀内茂木・根岸弘明・阿部華奈・ 藤縄幸雄(防災科研)・林晃(藤沢市)・
13:00	P088	藤沢市におけるリアルタイム地震情報活用 システムの実証的研究	目黒公郎(東大生産研)・大川純子(NTT 東日本)・杉野元一郎・横山美之 (NEC)・宮本英治(システムソフト)・ 森野慎也(白山工業)
13:00	P089	WINシステム用波形モニターツールの開発	° 鶴岡弘・ト部卓(東大地震研)
13:00	P090	新J-arrayのCD-ROMの概要	° 鷹野澄・鶴岡弘・山中佳子・菊地正幸・ 阿部勝征(東大地震研)
13:00	P091	Density Imageで見るHi-netによる遠地地 震	° 松村 稔・功刀 卓・小原 一成(防災 科研) ° 金沢敏彦・篠原雅尚(東大地震研)・荒 木英一郎・末広潔(JAMSTEC)・塩原 肇・山田知朗・中東和夫(東大地震研)・ 三ヶ田均(JAMSTEC)・深尾良夫(東大 地震研)
13:00	P092	北西太平洋における海底孔内広帯域地震観 測所のノイズスペクトル長期変動	° 勝間田明男(気象大学校)・山田安之 (気象大学校)
13:00	P093	3次元不均質構造における震源計算の高速 化	° 勝間田明男(気象大学校)・山田安之 (気象大学校)
岩石実験・			
13:00	P094	高温・高圧下におけるマイロナイトおよび 石英・長石の力学特性変化	° 新井崇史・増田幸治・藤本光一郎・重松 紀生・大谷具幸・角井朝昭・奥山康子
13:00	P095	共振法による岩石のQ値の測定 -1kHz~ 100kHzの周波数レンジのQ値-	° 行竹洋平・柳谷俊(京大防災研)・塚田和 彦(京大資源工)
地震の理論			
13:00	P096	3次元動弾性ボクセル有限要素法における 解析的節点方程式の導出	° 藤原広行(防災科研)・藤枝忠臣(富士 総研)

13:00	P097	海と地層からなる水平成層構造に対する境界積分方程式—超特異積分の出現—	畑山健 (消防研究所)
13:00	P098	短波長不均質構造が地震波に及ぼす影響 4 : S 波 particle motion のゆらぎ	福島 洋 (東北大:現・仏ブーレーズパスカル大), ° 西澤 修 (産総研), 佐藤 春夫・大竹 政和 (東北大学)
13:00	P099	深部低周波地震の時間発展 — KM20-Langevi 方程式理論に基づく定常・因果解析 —	° 武尾 実 (東大・地震研), 植田寛子 (東大・地震研), 松浦真也 (東大院・情報理工), 岡部靖憲 (東大院・情報理工)
13:00	P100	Bayesian approach to seismic tomography: Average vs. Maximum Likelihood solution	° ヴォイチェフ・デブスキー (サイクル機構)・安藤雅孝 (名古屋大)
新・地震波			
13:00	P101	”とても低い” 周波地震の検出 (その 2) : F-net および J-Array を用いた日本周辺地域でのイベント探索	° 石原 靖 (横浜市立大学) 山中佳子・菊地正幸 (東大地震研)
13:00	P102	広帯域地震観測網(F-net)における深発地震の検知能力	° 松本拓己 (防災科学技術研究所)
13:00	P103	低・高周波の 2 つの S 波を持つ地震波形 : スラブ上面の局所的な減衰・散乱領域	° 蓬田 清 (北大理)・勝俣 啓 (北大地震火山セ)・平 貴昭 (北大理)
13:00	P104	Receiver Function による日本列島下の地殻・マントル最上部構造の推定 — 不連続面の 3 次元表示に向けて —	° 山内麻記子 (名大院)・平原和朗 (名大院)・渋谷拓郎 (京大防災研)
13:00	P105	深さ依存速度構造を考慮した散乱係数空間分布の推定	° 浅野陽一・長谷川昭 (東北大・予知セ)
13:00	P106	2000年鳥取県西部地震の震源域における S 波反射体の 3 次元分布	° 土井一生 (京大理)・西上欽也 (京大防災研)・田所敬一・下川明子 (名大環境)
13:00	P107	防災科研 Hi-net 高周波サンプリングデータを用いた微小地震のスケーリングの研究	° 松原誠 (防災科研)・井出哲 (東大・理)・小原一成 (防災科研)
津波			
13:00	P108	津波伝播の数値計算手法に関する研究 (運動方程式の比較)	° 五十嵐 裕・岩瀬 康行 (防大地球)・松田 裕也 (国土交通省)・江口 孝雄 (防大地球)
13:00	P109	海底地形の水平変動により引き起こされる津波の数値シミュレーション	° 五十嵐 裕・岩瀬 康行 (防大地球)・松田 裕也 (国土交通省)・江口 孝雄 (防大地球)
13:00	P110	2002年9月と1998年7月にパプアニューギニア沖で発生した地震津波の比較	° 谷岡勇市郎 (気象研究所)
地震予知			
13:00	P111	b 値変化を用いた地震確率モデルの検証	井元政二郎・° 向井雅恵 (防災科研)
地震発生の			
13:00	P112	砂山崩しの実験とセルラーオートマトンモデルによるシミュレーション	° 吉岡直人 (横浜市大理)
13:00	P113	Seismic Energy for Shallow Earthquakes in Southwest Japan	° Anshu Jin (地震予知総合研究振興会) and 福山 英一 (防災科学技術研究所) ° 松澤 孝紀・武尾 実 (東大地震研)・今西和俊・伊藤 久男 (産総研)・井出 哲 (東大)

13:00	P114	ω _h -モデルによる補正を加えた微小地震の地震波エネルギーのスケーリング	理)・飯尾 能久(京大防災研)・堀内 茂木・関口 涉次(防災科研)・大見 士朗(京大防災研)
		Scaling of Earthquake Source Parameters for Small Earthquakes	Anna L. Stork (AIST), ° Kazutoshi Imanishi (AIST) and Hisao Ito (AIST)
13:00	P115	Recorded at the Western Nagano, Japan Deep Borehole	
			° 井出哲 (東京大学・理・地球惑星科学)
13:00	P116	Long Valley Calderaポアホール観測による微小 (M1-3) 地震のスケーリング	Gregory C. Beroza (Dept. Geophysics, Stanford University) Stephanie G. Prejean・William L. Ellsworth (US Geological Survey)
13:00	P117	粒状要素に基づく断層破碎帯のシミュレーション-モデルの物理的基礎-	伊神正貫 (富士総研)、° 芝崎文一郎 (建築研)、仲間豊 (富士総研)
13:00	P118	南海トラフ巨大地震発生サイクルシミュレーション-プレート間カップリングの時間変化と時間予測モデルの検討-	° 光井能麻・平原和朗 (名大環境)
13:00	P119	東北日本弧における3次元プレート境界面の数値シミュレーション	° 有吉 慶介(東北大地震予知), 加藤 尚之(東京大学地震研), 長谷川 昭(東北大地震予知)
13:00	P120	Possibility of triggering mechanism in three major Papua New Guinea earthquakes in 2000	° PARK Sun Cheon and MORI J. Jiro (DPRI, Kyoto Univ.)
13:00	P121	断層系の動的成熟過程における断層間相互作用の効果	° 安藤亮輔 (東大地震研)・山下輝夫 (東大地震研)
13:00	P122	1936年河内大和地震の震源断層モデル	° 堀川晴央・佐竹健治 (産総研・活断層研究センター)・石川有三 (気象研)・梅田康弘 (京大防災研)
13:00	P123	波形インバージョンによる2001年兵庫県北部地震の震源過程の推定(2)	° 木村武志 (神戸大院自然)・箕楽磨 (神戸大理)
13:00	P124	南アフリカ金鉱山で起きた微小地震(0.0<M<1.5)の破壊伝播速度:破壊エネルギーの拘束--南アフリカ金鉱山半制御地震発生実験(34)	° 山田卓司・James Mori・川方裕則 (京大防災研)・小笠原宏 (立命館大理工)・井出 哲 (東大理)・丹保繁和 (京大防災研)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
13:00	P125	2001年11月14日崑崙地震(Mw7.8)の地震波解析結果と断層変位調査の比較	° 菊地正幸 (東大地震研)・林愛明 (静岡大理)
13:00	P126	1938年11月5日の複数の福島県東方沖地震の比較研究	° 室谷智子・菊地正幸・山中佳子 (東大地震研)
13:00	P127	磐梯山で観測された長周期イベントの発生過程	° 橋野弘憲・西村太志・浜口博之(東北大・予知セ)
13:00	P128	歪み地震記録から推定される2000年北海道根室半島沖地震の震源過程	° 本多 亮・笠原 稔 (北大院理)
13:00	P129	2000年鳥取県西部地震の初期破壊	° 平田美佐子・梅田康弘・James Mori・川方裕則(京大防災研)
13:00	P130	微小地震における準備領域の大きさと最終的な地震の大きさの関係	° 平松良浩、古本宗充 (金沢大学自然)

13:00	P131	相似地震群析による吾城・福島沖ノレ ト境界における準静的すべりの時空間変化 の推定	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 内田直希・松澤暢・長谷川昭（東北大・理）・五十嵐俊博（東大・地震研） ◦ 伊藤久男（産総研）・今西和俊（産総研）・桑原保人（産総研）・加納靖之（京大防災研）・柳谷俊（京大防災研）・伊藤潔（京大防災研）・和田博夫（京大防災研）・水谷内修（神岡鉱業株式会社）
13:00	P132	断層セグメント境界の理解へ向けて一跡津 川断層稠密地上観測・ボアホール観測一	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 高野稔彦・安藤行雄・杉山章・柳澤昭夫（横浜市消防局）
地震活動			
13:00	P133	横浜市周辺の微小地震活動	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 高野稔彦・安藤行雄・杉山章・柳澤昭夫（横浜市消防局）
13:00	P134	2001年箱根群発地震活動の地震波形解析 について一地震活動および震源パラメー タの時間的变化一	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 村瀬 圭・棚田俊收（神奈川・温地研）
13:00	P135	Variations of b- and p- Value Seismicity. Parameters and Their Relation to Physical Processes for Earthquakes in Japan	<ul style="list-style-type: none"> ◦ Enescu Bogdan（京都大学防災研究所地震予知研究センター）伊藤 潔（京都大学防災研究所地震予知研究センター）
13:00	P136	日本列島における微小地震とひずみの関係	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 吉川佳余・James MORI（京大防災研究所）
13:00	P137	モーメントテンソル解から推定した大平洋 プレート上面の形状一福島・茨城沖一	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 久保篤規（防災科研）・福山英一（防災科研）
13:00	P138	2002年8月から発生した八丈島付近の地 震活動と長周期イベント	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 上野寛・池田靖・長谷部大輔（気象庁）・干場充之（精密地震観測室）・吉田康宏（気象研究所）・上垣内修（気象庁）
13:00	P139	海底地震計による1952年十勝沖地震震 源域での地震活動調査	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 高波鐵夫・村井芳夫・西村祐一・本田亮・勝俣啓・島村英紀（北大地震火山研究観測センター）、長谷川誠三・浮永久（水産総合研究センター北海道区水産研究所）
13:00	P140	海陸臨時観測による日向灘の微小地震活動	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 植平賢司・清水 洋・内田和也・松尾のり道（九州大理）・西野 実・日野亮太（東北大理）・望月公廣・篠原雅尚・金澤敏彦（東京大地震研）・馬越孝道（長崎大環境）・合田政次（長崎大水産）・八木原 寛・平野舟一郎・宮町宏樹・後藤和彦（鹿児島大理）
13:00	P141	マリアナ弧北端部の南日吉海山周辺におけ る海底地震活動	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 西澤あずさ・小野智三・橋口 博・大谷康夫（海上保安庁海洋情報部）
13:00	P142	2002年6月22日イラン北西部チャン ゴレ・アバジュ地震(Mw6.5)の余震観 測	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 鈴木貞臣・Sayyed Keivan Hosseini・藤井雄士郎（九大理）・Hossein Sadeghi（フェルドウシ大）・S.M.Fatemi Aghda（タルピアット大）
13:00	P143	北アナトリア断層帯西端部における地震活 動	<ul style="list-style-type: none"> ◦ S. Baris・B. Ucer（ボアジチ大）・伊東明彦（宇都宮大）・本蔵義守（東工大）
13:00	P144	岩手山の地震活動と地殻変動の相関性（そ の2）：岩手県内陸北部地震(M6.1)につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 佐藤峰司・浜口博之（東北大・予知セ）
13:00	P145	栃木県足尾地方で発生した深部低周波地震	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 植田寛子・武尾実・萩原弘子・橋本徹夫・舟崎淳

学校教育と

- 13:00 P146 (社)日本地震学会広報紙なるふると教材 日本地震学会広報委員会・°小泉尚嗣(産用ビデオ「地震はなぜ起こる?」について 業技術総合研究所地質調査総合センター)
- 13:00 P147 中学生向け教材用ソフト「地底三千マイルの旅ー地震と火山のなぜにせまるー」の操作性 伊藤和明(防災情報機構)・鍵山恒臣・吉田真吾(東大・震研)・桑原央治(都立大島高)・林敬三(林企画)・宮下敦(成蹊高)・°松浦律子(地震予知振興会)
- 13:00 P148 地震前、本当にナマズは騒ぐのかー自動観測ネットワーク構想 °江本豊・浅原裕・福田健二・山中千博・池谷元伺(阪大理)
- 13:00 P149 トルコ地震の前の「モーゼ現象」 °染川智弘・池谷元伺(阪大理)

11月13日

固体地球科

- 13:00 P150 「地球シミュレータ」による横ずれ断層の大規模シミュレーション °中島研吾(高度情報科学技術研究機構)橋本千尋(海洋科学技術センター)松浦充宏(東京大学大学院)
- 13:00 P151 CHIKAKUシステムによる東海モデルの地震発生シミュレーションにむけて 宮村 倫司(日本大学・理化学研究所)、金井 崇(慶應大学・理化学研究所)、大石 善雄(リンクス・リセウム)、°本間高弘(富士総合研究所)、牧野内 昭武(理化学研究所)
- 13:00 P152 不整形形状を伴うプレートの沈み込みによる応力場の不均質 °堀高峰・金田義行(JAMSTEC)
- 13:00 P153 非活動的縁辺部における沈み込みの開始 °中久喜伴益・濱田智穂(広大理)地球シミュレータによるSEMを用いた全球 °坪井誠司(IFREE)・Dimitri
- 13:00 P154 地震波伝播シミュレーション Komatitsch(Caltech)・Jeroen Tromp(Caltech)
- 13:00 P155 マントルの電気伝導度異常による誘導磁場のシミュレーション °田島文子(広島大理)・浜野洋三(東大理)・Thomas J. SHANKLAND(LANL)・松元亮治(千葉大理)
- 13:00 P156 Dynamo action and its temporal variation inside the tangent cylinder in MHD dynamo simulations. 高橋太(東京工業大学), 松島政貴(東京工業大学), °本蔵義守(東京工業大学)
- 13:00 P157 有限要素法を用いた地球ダイナモシミュレーション °松井 宏晃(高度情報科学技術研究機構)

地震予知の

- 13:00 P158 南アフリカTauTona金鉱山Spotted Dick Dyke:地震・ひずみ観測、応力測定ー南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験(31-1) °川方裕則(京大防災研)・小笠原宏(立命館大理工)・加藤愛太郎(IFREE・JAMSTECおよび東大地震研)・飯尾能久(京大防災研)・佐藤隆司(産総研)・石井紘(東濃地震科学研究所)・山内常生(名大環境)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ °加藤愛太郎(IFREE・JAMSTECおよび東大地震研)・小笠原宏(立命館大理工)・川方裕則・飯尾能久(京大防災研)・中尾茂(東大地震研)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
- 13:00 P159 南アMponeng金鉱山-Pretrius断層:地震・歪アレイ・断層変位観測計画-南ア金鉱山における半制御地震発生実験(31-2)

13:00	P160	南アBambanani金鉱山の石井式歪計の百m前後のM2~3地震群と10 ⁻⁴ 級歪変化	森山慎也・安達俊仁・竹内淳一・小笠原宏(立命館大理工)・石井 紘(東濃地震科学研究所)・中尾 茂(東大震研)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
13:00	P161	南ア金鉱山石井式歪計の地震直前記録のnon-causal artifactの除去と対数的余効変動-南ア金鉱山半制御地震発生実験(33)	竹内淳一・小笠原宏(立命館大理工)・石井紘(東濃地震科学研究所)・井出 哲(東大理)・Peter Mountfort・Artur Cichowicz(ISS International)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
13:00	P162	断層深部の実態と岩石の力学的, 化学的挙動	藤本光一郎・大谷具幸・重松紀生・増田幸司・新井崇史(産総研)田中秀実(東京大学)小村健太郎(防災科技研)小林洋二(筑波大学)
13:00	P163	アスペリティと非地震性領域の棲み分け-室内実験と数値実験	吉田真吾・中谷正生・加藤尚之(東大地震研)・加藤愛太郎(IFREE・JAMSTECおよび東大地震研)
13:00	P164	西南日本におけるプレート間カップリングの時空間変化	伊藤武男 橋本学(京大防災研)
地盤構造・地盤震動			
13:00	P165	均質化要素による複雑な構造の効率的な解析手法の提案	生出佳(東北大学大学院工学研究科)・市村強(東北大学大学院工学研究科)・寺田賢二郎(東北大学大学院工学研究科)
13:00	P166	札幌都市域におけるボアホール地震データと速度検層結果の比較	野口科子・吉田邦一・笹谷努(北海道大)
13:00	P167	K-NET及びKiK-net強震記録から推定した茨城県内のサイト増幅特性	寺門政史・河原純(茨城大理)
13:00	P168	横浜市北部地域の段差構造について	山崎 晴雄(東京都立大学) 阿部 進・中島 哲也・乾 晋・後藤 隆志(横浜市総務局危機管理対策室)
13:00	P169	Temporal Variation of H/V Spectral Ratio And Its Characteristics Stability in Shinyoshida, Yokohama	Mahmood RAHIMIAN(Tokyo Institute of Technology), Kazuoh SEO(Tokyo Institute of Technology)
13:00	P170	岐阜県東濃地域における地震波増幅特性	大久保 慎人・青木 治三(東濃地震科研)
13:00	P171	1995年兵庫県南部地震時に観測されたやや長周期地震動はどこで励起されたのか?	栗田勝実(東工大), 瀬尾和大(東工大)
地震波減衰			
13:00	P172	横浜市地震マップ	齋藤 正徳(横浜市立大学) 阿部 進・中島 徹也・乾 晋・後藤 隆志(横浜市総務局危機管理対策室)
13:00	P173	布田川・日奈久断層帯周辺域での地震動特性	古村美津子(地震予知総合研究振興会地震調査研究センター)
13:00	P174	防災科研Hi-netのデータを用いた日本列島下の3次元減衰構造	関根 秀太郎・松原 誠・小原 一成・笠原 敬司(防災科研)
13:00	P175	非線形の減衰構造が境港の強震動に及ぼした影響について	野津厚(港空研)

地震に伴う

- 13:00 P176 北海道におけるVHF帯電波伝播異常観測網の構築(2) ° 森谷武男, 茂木 透, 笠原 稔 (北大理学
研究科)
- 13:00 P177 相模湾初島沖海底ケーブルを用いた電界変動観測 ° 岩瀬良一(JAMSTEC)・藤縄幸雄(防災科
研)・後藤忠徳(JAMSTEC)・松本拓己(防
災科研)・高橋耕三(元通総研)

地球熱学

- 13:00 P178 相模湾初島沖冷湧水域における海底下温度勾配詳細マッピング ° 岩瀬良一・町山栄章・徐垣
(JAMSTEC)・Kevin M. Brown・Michael
Tryon(Scripps Institution of
Oceanography)

テクトニクス

- 13:00 P179 磁気異常スペクトル解析により示唆される。日本列島下の熱構造と地殻内地震発生層の下限 ° 田中 明子 (産業技術総合研究所 地質調
査総合センター)
- 13:00 P180 北海道日高衝突帯付近の3次元P波・S波速度構造 ° 勝俣啓 (北大理)・和田直人 (標津町役
場)・笠原稔 (北大理)
- 13:00 P181 宮崎地域の応力場変遷: 宮崎層群を切る地質断層からの知見 ° 山路敦 (京大地惑)
- 13:00 P182 南西諸島南部地域における地震のメカニズムについて ° 程塚保行 (東海大海洋)・馬場久紀 (東
海大総科研)・岩下 篤 (九東海大工)・
飯塚 進 (東海大海洋)・許 華杞 (大漢
技術学院 (台湾))
- 13:00 P183 SARおよび干渉SAR画像から推測されるアフター地域のテクトニクス ° 小澤拓 (学振/地理院)・野木義史 (極
地研)
- 13:00 P184 応力解析による火山性地溝の形状と形成規模の推定 ° 楠本成寿 (東海大 海洋)・竹村恵二
(京大 地球熱学)
- 13:00 P185 Postglacial rebound による1998年南極地震への応力効果 ° 奥野淳一 (東大地震研)・久保篤規(防災
科研)・中田正夫(九大院理)

活断層と古

- 13:00 P186 中世地震史料の収集(1): 識語, 棟札等非文献史料 ° 中西一郎 (京大理)
- 13:00 P187 箱根群発地震に関する文献記録の再検討(1917-1960) ° 萬年一剛・伊東博 (神奈川県温泉地学研
究所)
- 13:00 P188 掛け矢打ちによる活断層の浅層反射法探査(山形県常盤断層など) ° 長谷見晶子・清水満・出町知嗣・高杉魂
美 (山形大理)・中村洋介・金幸隆 (京大
理)
- 13:00 P189 栃木県関谷断層の活動履歴-塩原町関谷地区におけるトレンチ調査結果- ° 宮下由香里・下川浩一・寒川 旭・杉山
雄一 (産総研・活断層研究センター)・丸
山直樹・大石 朗 ((株)ニュージェッ
ク)・斎藤 勝 ((株)ダイヤコンサルタン
ト)
- 13:00 P190 糸魚川-静岡構造線活断層系中・南部の活動履歴とセグメンテーションモデル ° 三浦大助・幡谷竜太・阿部信太郎・青柳
恭平・宮腰勝義・井上大榮 (電力中央研究
所)
- ° 穴倉正展・遠田晋次 (産総研・活断層研

- 13:00 P191 木曾山脈西縁断層帯沿いにおける異なる活動履歴
研究センター)・荻谷愛彦(千葉大)永井節治(南木曾町在住)・二階堂学・高瀬信一(ダイヤコンサルタント)
- 13:00 P192 ローム層の高密度ポーリング掘削に基づく魚津断層南部の第四紀後期における上下変位速度
° 中村洋介・金 幸隆(京大理)・水野清秀・小松原 琢(産総研)・杉戸信彦・土志田正二・松岡 暁(京大理)
- 13:00 P193 伏在する生駒断層により形成された変動地形
° 石山達也(産総研・活断層研究センター) 末廣匡基(㈱阪神コンサルタンツ) 横田 裕(㈱阪神コンサルタンツ)
- 13:00 P194 ブルナイ断層(モンゴル北西部)の変形構造と活動履歴
° 衣笠善博・加藤純一(東工大総合理工)・山崎晴雄(都立大理)・Amgalan BAYASGALAN(モンゴル科学技術大)
- 13:00 P195 2002年6月22日イラン西部地震の地表地震断層
° 後藤秀昭(福島大教育)・吾妻 崇(産総研)・小長井一男・サダール・アミール(東大生産技術研)

地殻変動・G

- 13:00 P196 モンテカルロ混合カルマンフィルタを用いた測地データの時空間インバージョン
° 福田淳一(東大地震研)・樋口知之(統計数理研究所)・宮崎真一・加藤照之(東大地震研)
- 13:00 P197 ブロッカー断層運動からみた東アジアのテクトニクス
° 岩国真紀子・加藤照之・宮崎真一・孫文科(東大地震研)
- 13:00 P198 年平均変動‘加速度’からみる地殻変動
° 戸谷 雄造 ・ 笠原 稔 (北大院理)
- 13:00 P199 年平均変動速度で見た2000年から2002年にかけての地殻変動
° 海津優(国土地理院)
- 13:00 P200 東海地方の異常地殻変動の最近の状況
° 小沢慎三郎、村上亮、海津優、畑中雄樹、鷺谷威、矢来博、西村卓也
- 13:00 P201 南西諸島のGPS速度場とサイスマテクトニクス
° 渡部 豪・田部井隆雄(高知大・理)・畑中 雄樹(国土地理院)
- 13:00 P202 1996年8月11日秋田県内陸北部で発生した地震に伴う地殻変動-JERS-1/SARの干渉SAR解析より-
° 矢来博司・村上亮・飛田幹男・中川弘之(国土地理院)・藤原智(国土交通省)
- 13:00 P203 1914年秋田仙北地震に伴う地殻変動
° 鷺谷 威(国土地理院)
- 13:00 P204 GPSトラバース観測によって得られた山崎断層の時空間変動
° 佐藤一敏・橋本 学・大谷文夫・細 善信(京大防災研)
- 13:00 P205 箱根火山における2001年群発地震活動に伴う傾斜変動
° 代田寧、棚田俊收、伊東博(神奈川県温泉地学研究所)
- 13:00 P206 2002年5月伊豆半島東部群発地震に伴った地殻変動の開口断層モデル
° 上田英樹・山本英二・大久保正(防災科研), 村上 亮(国土地理院), 上野寛・宇平幸一(気象庁)
- 13:00 P207 三宅島で観測された1周波GPS解析における電離層の影響
° 中尾茂(東京大学地震研究所), 渦山弘明(気象庁), 増成友宏(古野電気)
- 13:00 P208 L3位相を用いた長距離キネマティックGPS解析の問題点
° 矢吹哲一朗(海洋情報部)
- 13:00 P209 海底地殻変動観測における計測誤差要因-船上局支柱のたわみとトランスデューサーの形状-
° 望月将志(東大生産研)・佐藤まりこ・藤田雅之(海洋情報部)・吉田善吾(東大生産研)・矢吹哲一朗(海洋情報部)・浅田 昭

			(東大生産研)
13:00	P210	ハワイ沖でのGPS・音響測位観測	° 長田幸仁(東大地震研)、藤本博巳、三浦哲(東北大理)、金沢敏彦(東大地震研)、David Chadwell、John A Hildbrand(UCSD)
13:00	P211	オンライン海底レーザ測距システム(1)	° 江口孝雄・大木道生(防衛大地球海洋)
13:00	P212	油壺の海岸近くで観測された比抵抗変動の原因について - 応力か地下水か -	° 山下太・柳谷俊(京大防災研)
13:00	P213	大気荷重によるひずみ変化を用いた野島断層近傍の弾性構造の推定	° 向井厚志(奈良産大)・藤森邦夫(京大院理)
13:00	P214	産業技術総合研究所安富観測点で見つかった顕著な地殻歪変化	° 北川有一・小泉尚嗣・大谷竜(産総研)・渡辺邦彦・板場智史(京大防災研)
13:00	P215	日本列島における新しい活断層マッピングと稠密重力異常の関係	° 山本明彦(北大院理)・西南日本重力研究グループ
13:00	P216	山崎断層の石の密度と重力測定	° 竹内文朗・中村佳重郎・渡辺邦彦・松村一男(京大防)
13:00	P217	西南日本重力データベースの運用 - 九州地方を例として -	° 志知龍一(中部大工)・山本明彦(北大院理)・工藤 健(サイクル機構)・村田泰章・名和一成・駒澤正夫(産総研/地質調査所)・中田正夫(九大理)・宮町宏樹(鹿児島大理)・小室裕明(島根大総合理工)・福田洋一・東 敏博(京大理)・由佐悠紀(京大理)・中川一郎(第一復建)・渡辺秀文・及川 純(東大震研)・小林茂樹(九州東海大工)・大野一郎(愛媛大理)・国土地理院・地熱開発促進センター